

東京国立文化財研究所要覧

1980

昭和55年度

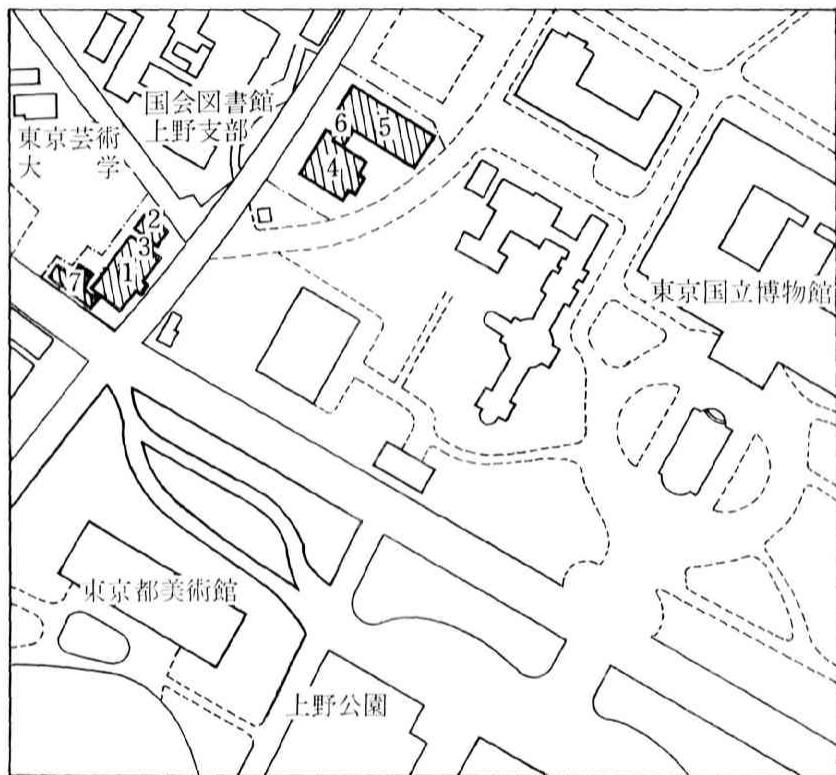


東京国立文化財本館・情報資料部研究棟



東京国立文化財研究所保存科学部実験室・別館

# 東京国立文化財研究所建物所在図



1. 本館（美術部）
2. 書庫
3. 渡廊下
4. 保存科学部実験室（庶務課・保存科学部）
5. 別館（芸能部・保存科学部・修復技術部）
6. 渡廊下
7. 情報資料部研究棟

## は　じ　め　に

昨年度からこの要覧は、若干内容を改訂した。その趣旨は、一般的な研究所の紹介を目的とした簡単なパンフレット「東京国立文化財研究所概要」が別途作製されることになったのを機に、この要覧の方は、むしろその年度における調査研究や諸事業をなるべく詳しく報告するとともに、研究施設、設備の状況をも紹介して、各方面の研究者の参考に供しようとするに於いた。今年度の要覧も、この線にそって編集されている。

本年度の研究活動をふりかえてみると、二つの点が特に想い出される。ひとつは、今年度より文部省科学研究費「特定研究」に「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」という領域が定められ、3カ年計画で研究が開始されたことである。この研究には当研究所からも多数の研究員が参加している。特定研究は、文部省が特に重視している大型プロジェクト研究であって、これに文化財に関する研究が課題としてとり上げられたことは、その重要性が認識されたあらわれであり、まことに喜ばしい。今後の成果が期待される。

第2には、当研究所が毎年行っている「文化財の保存及び修復に関する国際研究集会」が、従来とは若干様相を異にし、芸能部の担当によって、「伝統芸能の保存と発展」をテーマとして開催されたことである。多様な領域を内包する文化財の研究が、それぞれに国際的視野に立って推進されるのは、きわめて望ましいことであり、今回の研究集会は、その第一歩として意義がある。

東京国立文化財研究所長

伊　藤　延　男

目 次

I 沿革	1
1 設立の経緯	1
2 年表	1
3 歴代所長	5
II 機構と職員	6
1 機構	6
2 職員	7
III 調査研究	10
1 所長	10
2 美術部	10
(1) 概要	10
(2) 研究調査活動	12
A 一般研究	12
B 特別研究	15
C 科学研究費	16
3 芸能部	16
(1) 概要	16
(2) 研究調査活動	18
A 一般研究	18
B 特別研究	20
C 科学研究費	20
4 保存科学部	21
(1) 概要	21
(2) 研究調査活動	22
A 一般研究	22

B 特別研究 .....	27
C 受託研究 .....	29
D 科学研究費 .....	30
5 修復技術部 .....	31
(1) 概    要 .....	31
(2) 研究調査活動 .....	32
A 一般研究 .....	32
B 特別研究 .....	36
C 受託研究 .....	37
D 科学研究費 .....	38
6 情報資料部 .....	39
(1) 概    要 .....	39
(2) 研究調査活動 .....	40
A 一般研究 .....	40
B 科学研究費 .....	42
7 主要研究業績 .....	42
8 その他の研究活動 .....	57
IV 事    業 .....	59
1 出        版 .....	59
(1) 美術研究 .....	59
(2) 日本美術年鑑 .....	60
(3) 保存科学 .....	60
2 黒田清輝巡回展 .....	61
3 公開学術講座 .....	61
4 会        議 .....	62
5 国際・国内交流 .....	66

V	研究施設・設備	71
1	蔵書	71
2	当所出版物	72
3	資料	75
4	機器・設備	76
5	黒田記念室	81
6	閲覧室	82

# I 沿革

## 1 設立の経緯

本研究所以、昭和27年4月1日発足したのであるが、その前身であり母体となったものは、昭和5年に創設された帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、大正13年7月、故帝国美術院長子爵黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選定を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原鏞二郎及び東京美術学校長正木正彦とはかつて諸方面の意見を徴し、また我が国美術上の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立のうちは一切これを政府に寄附すること。

## 2 年 表

昭和元年12月 前記の事業を遂行するため委員会が設置され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業について東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列について東京美術学校教授久米桂一郎・同岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建築造営について東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務について遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。

昭和2年2月 美術研究所準備事業を開始した。

同 年10月 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192 m<sup>2</sup>の建物1棟を起工した(本館)。

同 3年9月 前記の建物が竣工したので、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、同子爵の作品

## 沿 革

を陳列した。

同 4 年 5 月 遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。

同 5 年 6 月 28 日 勅令第 125 号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。

同 年 10 月 17 日 美術研究所開所式を挙行政した。

同 7 年 1 月 美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物「美術研究」を創刊した。

同 年 4 月 18 日 株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う 5 ケ年間毎年 5 千円、合計 2 万 5 千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。

同 年 5 月 26 日 帝国美術院はこの申出を受理した。

明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。

同 9 年 10 月 18 日 毎年 10 月 18 日を開所記念日と定めた。

同 10 年 1 月 28 日 鉄筋コンクリート造、2 階建、延面積 129m<sup>2</sup> の書庫が竣工した。

同 年 4 月 「日本美術年鑑」の編纂事務を開始した。

同 年 6 月 1 日 勅令第 148 号により美術研究所官制が公布された。

研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。

同 12 年 6 月 24 日 勅令第 281 号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。

同 年 11 月 29 日 美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。

同 13 年 2 月 12 日 木造、平屋建、延面積 97m<sup>2</sup> の写真室 1 棟が竣工した。

同 19 年 8 月 10 日 黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。

同 20 年 5 月 28 日 美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町 1 丁目日本間家倉庫 3 棟に疎開した。

同 年 7 ～ 8 月 酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之

丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。

同21年 3月29日 酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。

同 年 4月 4日 酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し引揚げを完了した。

同 年 4月16日 東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開中であった黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。

同22年 5月 3日 美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。

国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた。これが保存科学部の前身である。昭和23年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室(66㎡)に設けた。

同 24年 4月 本年度から科学研究費により光学的方法による美術品の鑑識に関する研究が開始された。

同25年 8月29日 文化財保護法の制定に伴い、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。

昭25年 9月15日 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。

同26年 1月31日 美術研究所組織規程(昭和26年文化財保護委員会規則第5号)が定められ第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。(昭和25年8月29日から適用)

同27年 4月 1日 東京文化財研究所組織規程(昭和27年文化財保護委員会規則第4号)が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の3部1室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。

また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。

同 年 7月 1日 芸能部研究室として東京芸術大学音楽学部邦楽科教室2室を同大学から借用し、研究を開始した。

同28年 4月26日 保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫 132㎡を改造のうえ、移転した。

同29年 7月 1日 東京文化財研究所組織規程の一部が改正され(昭和29年文化財保護委員会規則第1号)、東京国立文化財研究所となった。

## 沿 革

同32年3月28日 東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平家建、8㎡の保存科学部の薬品庫が竣工した。

同 年11月30日 従来の2階建書庫のうえに更に1階を増築3階建とし、増築分延面積71㎡が竣工した。

同34年4月30日 国立文化財研究所研究受託規程(文化財保護委員会告示第14号)が定められ、この年度から受託研究が開始された。

**同36年9月16日** 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され(昭和36年文化財保護委員会規則第1号)、従来の庶務室は庶務課となった。

同37年3月31日 東京国立博物館構内に保存科学部庁舎(保存科学部実験室)として、鉄筋コンクリート造2階建延面積663㎡の建物1棟が竣工した。

**同 年7月1日** 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され(昭和37年文化財保護委員会規則第1号)、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。

同 年7月20日 芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工に伴い、旧保存科学部庁舎に移転した。

**同43年6月15日** 文部省設置法の一部が改正され(昭和43年法律第99号)、本研究所は文化庁附属機関となった。

同44年8月23日 保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎(延1,950.41㎡)の起工式が行われた。

同45年3月25日 前記の別館が竣工したので、同年5月26日竣工式が行われた。

同45年4月22日 芸能部は、別館3階に移転した。

同45年5月8日 保存科学部は、別館の地階～2階に実験用機械類の移転据付を終わった。

同45年6月29日 保存科学部庁舎の1階の模様替工事に着手し、同年10月15日工事が終了した。

同 年11月2日 所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の1階に移転した。

(本館は、美術部庁舎となる。)したがって研究所の所在地表示は「12番53号」を「13番27号」に変更された。

同46年4月1日 保存科学部庁舎及び別館の敷地2,658㎡を東京国立博物館から所管換された。

同48年4月12日 文部省設置法施行規則の一部が改正され(昭和48年文部省令第6号)新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。

同52年4月18日 文部省設置法施行規則の一部が改正され(昭和42年文部省令第10号)情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。

同53年3月20日 本館構内の写場等(木造平家建延面積144㎡)を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積565.95㎡の建物が竣工した。

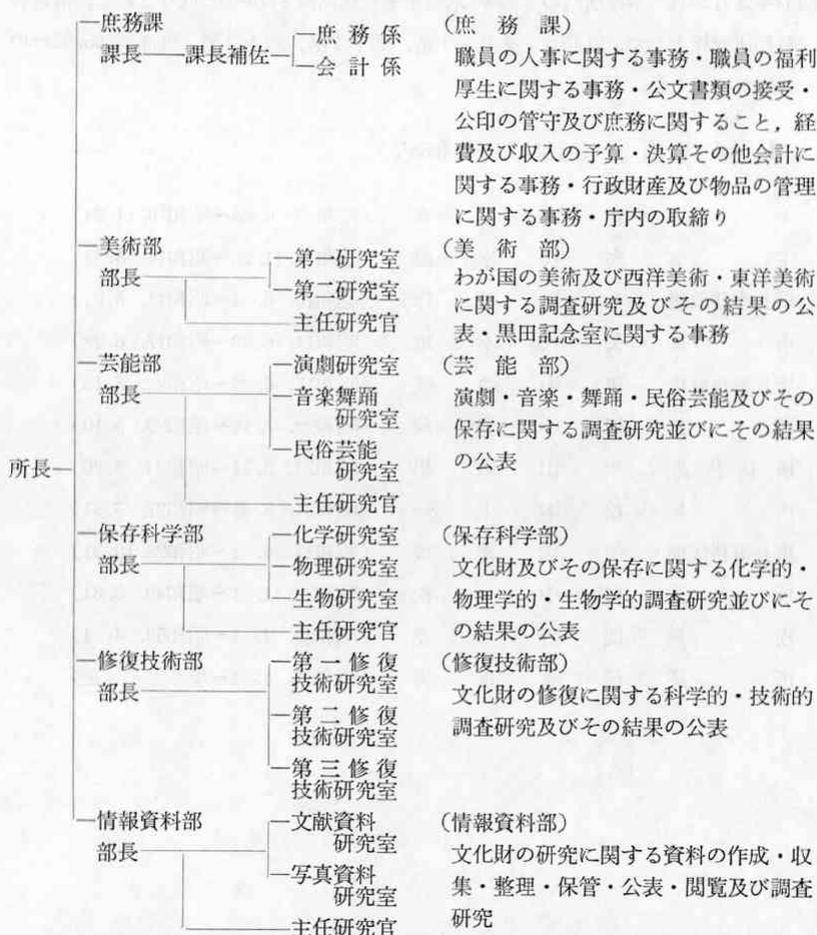
### 3 歴代所長(昭和5年～昭和55年)

主 事	正 木 直 彦	(昭和 5. 6. 28～昭和 6. 11. 24)
主 事	矢 代 幸 雄	(昭和 6. 11. 25～昭和10. 5. 31)
所長事務取扱	和 田 英 作	(昭和10. 6. 1～昭和11. 6. 21)
所 長	矢 代 幸 雄	(昭和11. 6. 22～昭和17. 6. 28)
所長事務取扱	田 中 豊 藏	(昭和17. 6. 29～昭和22. 8. 15)
所 長	田 中 豊 藏	(昭和22. 8. 16～昭和23. 5. 10)
所長代理	福 山 敏 男	(昭和23. 5. 11～昭和24. 8. 30)
所 長	松 本 栄 一	(昭和24. 8. 31～昭和27. 3. 31)
所長事務代理	矢 代 幸 雄	(昭和27. 4. 1～昭和28. 10. 31)
所 長	田 中 一 松	(昭和28. 11. 1～昭和40. 3. 31)
所 長	関 野 克	(昭和40. 4. 1～昭和53. 4. 1)
所 長	伊 藤 延 男	(昭和53. 4. 1～現 在)

## II 機構と職員

東京国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うことを目的として設立された文化庁の附属機関である。その機構等は次のとおりである。

### 1 機 構



## 2 職 員

(昭和56年3月30日現在)

所 属	職 名	氏 名	
所 属 庶 務 課 庶 務 係 会 計 係 美 術 部 第一研究室	所 長	伊 藤 延 男	(日本建築史)
	課 長 補 佐	守 谷 安 知	
	課 長 補 佐	西 山 口 小 太 郎	
	係 長 員	出 松 本 村 節 子	
	事 務 補 佐 員	中 宮 崎 真 澄	
	"	小 平 木 喜 代 子	
	技 能 補 佐 員	齊 藤 喜 多 江 朗	
	主 任 員	花 岡 忠 義	
	事 務 補 佐 員	吉 川 久 美 子	
	技 能 補 佐 員	高 川 成 一	
美 術 部 第一研究室	部 室 長	川 上 次 郎	(中国絵画史)
	室 長 員	宮 田 村 悦 子	(日本中世絵画史)
	主 任 研 究 官	柳 沢 孝 子	(和漢書道史)
	"	猪 川 和 子	(仏教絵画史)
	"	田 実 栄 子	(日本彫刻史)
	研 究 員	増 田 勝 彦	(染織工芸史)
	研 究 員(非)	高 橋 邦 枝	(装演技術)
	室 長	関 千 代	(資料整理・編集補佐)
	主 任 研 究 官	陰 里 鉄 郎	(日本近代絵画史)
	研 究 員	三 輪 英 夫	(日本近世・近代絵画史)
美 術 部 第二研究室	事 務 補 佐 員(非)	中 西 由 美 子	(資料整理・編集補佐)
	"	大 西 純 子	( " )
	部 室 長	三 隅 治 雄	(民俗芸能)
	室 長	佐 藤 道 子	(寺院芸能)
	調 査 研 究 員(非)	松 本 雅 郎	(中世芸能)
	室 長	柿 木 吾 郎	(音楽学)
	研 究 員(併)	横 道 萬 里 雄	(中世芸能)
	調 査 研 究 員(非)	山 本 宏 子	(民族音楽学)

機構と職員

所 属	職 名	氏 名	
民俗芸能研究室	室 長	羽 田 昶	(日本演劇)
	研 究 員	中 村 茂 子	(民俗芸能)
	調査研究員(非)	仲 井 幸二郎	(芸能史)
	事務補佐員(非)	太 田 有喜子	(資料整理)
保存科学部 化学研究室	部 長	江 本 義 理	(分析化学)
	室 長	馬 淵 久 夫	(同位体化学)
物理研究室	主 任 研 究 官	門 倉 武 夫	(大気汚染)
	室 長	見 城 敏 子	(塗料化学)
	主 任 研 究 官	石 川 陸 郎	(照明・ラジオグラフィー)
	研 究 員	三 浦 定 俊	(微気象)
生物研究室	技術補佐員(非)	富 沢 威	(分析化学)
	室 長	新 井 英 夫	(微生物学)
	調査研究員(非)	森 八 郎	(応用昆虫学)
修復技術部 第一修復技術研究室	部 長	田 辺 三郎助	(美術史学)
	室 長	中 里 寿 克	(漆芸技術)
第二修復技術研究室	専 門 職 員	茂 木 曙	(彩色保存技術)
	研 究 員	西 浦 忠 輝	(木材材質改良学)
	室 長	鶴 田 武 良	(中国絵画史)
第三修復技術研究室	室 長	樋 口 清 治	(高分子化学)
	研 究 員	青 木 繁 夫	(考古学)
	技術補佐員(非)	三 浦 正 人	(考古遺物保存技術)
情報資料部 文献資料研究室	部 長	久 野 健	(東洋彫刻史)
	室 長	上 野 ア キ	(東洋古代絵画史)
	主 任 研 究 官	江 上 綏	(日本古代絵画史・文様史)
	研 究 員	米 倉 迪 夫	(日本中世絵画史)
写真資料研究室	事務補佐員(非)	竹之内 玲 子	(図書・文献資料整理)
	室 長	関 口 正 之	(日本仏教絵画史)
	研 究 員	鈴 木 廣 之	(日本近世絵画史)
	専 門 職 員	橋 本 弘 次	(美術写真)
	"	市 川 和 正	( " )
	"	野久保 昌 良	( " )
	事務補佐員(非)	田 中 与 子	(写真資料整理)

機構と職員

昭和55年度における転退職者

庶務課	係 員	正 藤 隆 生	49. 8. 1~56. 2. 15	東京大学へ 転出
”	事務補佐員(非)	築 田 昌 子	54. 4. 1~55. 3. 31	退 職
美術部	” (非)	中 西 由 美 子	51. 1. 19~56. 3. 31	退 職
芸能部	調査研究員(非)	山 本 宏 子	51. 4. 1~56. 3. 31	退 職

### Ⅲ 調査研究

#### 1 所 長

##### (1) 日本建築史の研究

従来よりの継続として行っているもので、本年度は引続き奈良平安時代に重点を置いた。

##### (2) 日本建築構造技法の研究

科学研究費 特定研究「古文化財」の第2期の第1年度として、「文化財建造物の構造力学的研究」の総括責任者となった。研究班は、伊藤のほか東京大学教授杉山英男氏、同助手安藤直人氏、東文研西浦忠輝氏で編成し、文化庁建造物課主任文化財調査官、工藤圭章氏、同伊原恵司氏、奈文研平城部長岡田英男氏、同建造物室長吉田靖氏にも協力を願っている。

本年度は、各種民家軸組モデルの耐力測定を行うとともに、民家の壁配置の史的調査、荷重計算等を行った。

##### (3) 文化財保護制度史研究

従来よりの継続として史料整理を行った。

##### (4) 木材年輪年代学の基礎研究

本年度は日光地方のスギの年輪8個体を採集し、奈文研光谷拓実氏を招へい研究員に迎えて共同してその測定に当たった。

#### 2 美 術 部

##### (1) 概 要

美術部は日本・東洋の古美術、日本の近代・現代美術とこれらに関連のある西洋美術についての基礎的調査と専門的研究を行っている。美術部は現在2室に分かれ、古美術関係は第一研究室、近代・現代・西洋美術については第二研究室が担当する。

調査研究は、美術部所属研究員の専門領域を中心として実証的に進められている

## 美術部

が、学界現下の動向を把握するとともに将来の趨勢を洞察し、方法においても成果においても、基礎的・先駆的役割を果して、広く学界に寄与すべく努めている。そのため重要な問題に関しては共同研究を行い、また当部独自の光学的研究法を活用し、すでに多くの成果を収めた。1昨年度より4カ年計画で情報資料部と共同の特別研究「落款・印章・賛文・銘記の研究」を行い、これに関する資料収集を推進している。

これらの業績は当所の機関誌「美術研究」(昭和7年創刊)に発表し、大部の成果は随時単行の研究報告書として刊行している。またわが国美術界の全般にわたる動向を調査し、客観的資料の提供を主眼とした「日本美術年鑑」を編集刊行している。

以上のほか、調査研究成果の一部を広く一般の理解に資するため、毎年1回公開学術講座を開催している。

黒田清輝の遺産と遺作の寄附に基づいて創立された美術部(旧美術研究所)の黒田記念室は、黒田清輝の作品その他関係資料を保管し、毎週一回、一般に公開している。

### 第一研究室

第一研究室の研究員は、日本及び東洋諸地域の古美術について、各々専門とする領域と時代を中心に調査研究を進め、主要問題を捉えた特別研究「落款・印章・賛文・銘記の研究」及び特定研究1「科学的調査法による日本古代中世絵画の実証的研究」(代表者 学習院大学教授秋山光和)に参加し、また常に精密な基礎資料の収集に努めている。その研究課題と調査研究内容は(2)研究調査活動の項に示す通りである。さらに、第一研究室においては「美術研究」の編集事務を担当している。

### 第二研究室

従来より継続として、明治以降美術史の調査研究並びに現代美術の動向に関する資料の収集と調査を行っている。日本の近代美術は、西欧美術との関連が極めて強いことから、それとの比較研究も進めている。また、幕末、桃山以降洋風画、南蛮美術等についても若干の研究を行っている。現代美術に関する調査研究は、集積した年度資料を整理し、その結果を「日本美術年鑑」(B5判、約300頁前後)として毎年公刊している。本年度は昭和53年の内容をもった54年版を刊行、引つづき55年版の編集に着手し

## 調査研究

た。なお特別研究「落款・印章・賛文・銘記の研究」にも参加、近代関係資料の収集につとめた。そのほか研究所事業として昭和52年度以降実施してきた黒田清輝巡回展が5月佐賀県立博物館において開催された。同展開催にともなう作品選定、カタログ制作、講演会、陳列指導等研究事務については、第二研究室がこれにあたり、進捗させた。

### (2) 研究調査活動

#### A 一般研究

##### 1. 日本彫刻史の研究

###### (1) 日本古代彫刻・東洋彫刻の研究

日本古代彫刻と関連のある地域の彫刻調査として、インドネシア・ボロブドールを中心に彫刻及び壁画浮彫の調査を行った。また源流としての中国彫刻研究のため、敦煌、甘肅省博、大内雲寺、天津博の調査を行った。さらに、京博、奈良博出陳の関連諸像の調査を行った。(猪川)

###### (2) 平安鎌倉時代彫刻の調査

愛知滝山寺の運慶善慶作と伝える観音三尊、埼玉県博の平安鎌倉彫刻出陳作、埼玉会館の金銅仏展出陳作の調査及び京都西念寺観音像調査を行った。(猪川)

###### (3) 尊像別分類による彫刻の研究

奈良時代より江戸時代、現代に及ぶ涅槃の釈迦像の作例を集め、未調査の京都、茨城他の諸像の調査を行った。(猪川)

##### 2. 日本古代中世絵画史の研究

###### (1) 仏教絵画史の研究

前年度に引続き奈良時代より鎌倉時代にわたる主として仏教絵画の調査研究並びに資料の整理にあたったほか、下記の主題に関する調査乃至考察に従事した。(柳沢)

a) 別項の特定研究 I「科学的調査法による日本古代中世絵画の実証的研究」に参加し、赤外線TVカメラにより、称名寺金堂仏後壁画及び鳳凰堂扉絵の調査を実施し、前者に関する成果を発表した。そのほか聖衆来迎寺蔵六道絵(同寺並びに琵琶湖文化館、京博所在のもの)を調査した。(柳沢)

b) さき在外中に調査した欧米所在の、主として日本仏教絵画作品に関して考察

を加え、特にボストン美術館所蔵の四天王画像について、その年代・画家・伝来等にわたる詳細な論究を発表した。(柳沢)

c) 敦煌壁画を詳しく実見することにより、中国絵画と日本のそれとの関係に関する新知見を得ると共に写真資料の整備につとめた。(柳沢)

## (2) 絵巻・経絵の研究

絵巻物の調査研究として本年は京都市安楽寿院蔵高祖大師秘密縁起10巻及び神戸市白鶴美術館蔵高野大師行状図画10巻の調査及び写真撮影を行うほか、科学研究費「近代日本における画卷の研究」(代表者 関千代)の分担者として、近代絵巻の調査に従事した。(宮)

経絵の調査研究は、昨年にひきつづき法華経絵について、特に和歌と今様との関係を文献的に調査し、その成果を発表した。(宮)

## 3. 近世絵画史の研究

オランダ所在川原慶賀作品の来日を機に調査を続行し、若干の成果をえた。また、東京芸大芸術資料館所蔵の洋風絵画を調査した。(陰里)

### 1) 江戸洋風画の研究

江戸後期の洋風画家の作品、ことに長崎系を中心に調査を行った。(三輪)

## 4. 近代日本美術史の研究

1) 近代日本における画卷の調査を、共同研究により行い、主要作品の写真資料を多数蒐集し得た。(関、陰里、三輪)

2) 前年度より引続き、落款、印章の蒐集を行い、前田青邨ほかの印譜を作成した。(関)

3) 狩野芳崖写生帖類(芸大収蔵)の調査を行った。(関)

明治初期以降、昭和初期までの洋画におけるヨーロッパ絵画との関係を、留学滞欧作家に來日西洋画家を含めてその師受、影響関係などを調査した。(陰里)

2) 黒田清輝の素描・スケッチの調査を行った。(関、陰里、三輪)

3) 久米桂一郎の文献資料について調査を行った。(三輪)

4) 海外調査の機会をえてアメリカ、ブラジルにおける日本人画家、及び日系画家について調査した。(陰里)

## 5. 和漢書道史の研究

## 調査研究

### (1) 書道遺品の調査

書道史の遺品の研究も字句の釈読・解義をゆるがせにしてはならないことを、例えば藤原佐理の書蹟『去夏帖』の中の文字を例として、すなわち博の単位を従来「材」とよんできたのが実は「村」とよむべきであることを究明したのである。(田村)

### (2) 古筆切の集録研究

寸断された古筆切は、それが何から切られたかということを明らかにすることによって美術史・文学史・日本史その他の有益な材料にすることができる。粟田切が法然寺本地蔵縁起絵巻であり、玉津切が蜻蛉日記詞書であることを考察していささかこの方面に力をいたした。(田村)

### (3) 日本書道の文字学的研究

浄土真宗の開祖親鸞の書が文字の点からみると特殊な異体字・帝譚をさけた欠筆等種々特異なものがあることを主として『坂東本教行信証』について観察し、同書ならびに親鸞筆蹟の編年に役立てうることを主張した。(田村)

## 6. 美術部工芸史の研究

現在は陶磁・漆工・金工の研究員は不在で、染織専門の主任研究官田実栄子が必要に応じこれらの調査に当たっているが、主なる研究題目及び調査活動は下記の通りである。

### (1) 近世初期染織品の研究

### (2) 小袖の研究

### (3) 伝統的染織技術の調査・研究

### (4) 上代製の研究

研究題目の中、特に力を注いでいる「近世初期染織品の研究」に関しては、和歌山市の紀州東照宮伝来染織品の調査、米沢市の上杉神社蔵上杉謙信所用袴類の調査、宮城県白石市の片倉家伝来陣羽織の調査・研究が昭和54年度に引続く研究として進めたもので、そのうち紀州東照宮の染織品は美術研究306・310・311号に発表したものにその後の調査研究を加えて一本とした(昭和55年7月、芸艸堂発行)。「小袖の研究」では石見の益田家伝来綾小袖の調査・研究も行い、近年発見の初期小袖を取扱って美術研究316号発表の論文とした。片倉家伝来黒縹子小袖の修復技術部との共同研究(修復技術上の)を続行し、この経過を第3回古代染織サロンの発表した(昭和56年2月17

## 美術部

日)。「伝統的染織技術の調査・研究」では沖繩本島・石垣島・竹富島に3回目の調査に出かけ(昭和56年2月中旬から下旬)、今回は特に麻織物と芭蕉布の伝統的糸作りを調査した。また日本工芸会で昭和53年度から4カ年計画で行っている東博蔵「白地風景模様茶屋染帷子」の復元メンバーになり調査研究記録を担当し3年目である。「上代裂の研究」はこの年が1年目の東博特定研究の分担者になり、法隆寺裂・正倉院裂の基礎調査に加わった。また科学研究費一般研究B(代表者・関千代)「近代日本における画卷の研究」に分担を風俗・服装関係を持ち調査・研究に従事した。

### 7. 中国絵画史の研究

- (1) 台北故宮博物院において、明代文人の作品約30点を調査した。(川上)
- (2) 米国において、カリフォルニア大学美術館の安徽派絵画展の約60点、同学所蔵品約30点、デ・ヤング美術館所蔵品約40点、クリーブランド美術館で行われた同館及びネルソン美術館所蔵品による共同展示で約280点、フォッグ美術館所蔵品約20点、フリーア美術館所蔵品約10点、メトロポリタン美術館所蔵品約20点の中国画を調査した。(川上)
- (3) 大阪・橋本家及び兵庫・岸本家収蔵来舶画人作品の調査を行った。(鶴田)
- (4) 昭和55年度文部省在外研究員としてカリフォルニア大学パークレー校において近代・現代中国絵画資料の収集を行った。(鶴田)

## B 特別研究

### 「落款・印章・賛文・銘記の研究」

(研究代表者 美術部第一研究室長 宮次男)

#### 研究目的

本研究は、わが国の中世・近世・近代の絵画・書蹟・彫刻等のうち、落款・印章・賛文・銘記を有する作品を対象として、これらの資料を極力調査収集し、その基礎資料によって、作品の鑑別、真偽判定等を行い、作家研究を推進するものである。

#### 実施要領

1. 中世以降近世までの彫刻作家約500人を選びだし、その作品及び関係銘記の資料を収集整理して研究を行う。
2. 東京国立文化財研究所が現在所蔵している近世画家等約450人の落款・印章の写

## 調査研究

真資料を基礎に調査研究をはかるとともに、重要作品及び主要画家等で資料の欠けているものの文献・写真資料の収集・調査を行う。

3. 近代美術の分野では、明治以降主要日本画家の印譜作成を行い、洋画家については主要作品のサイン写真の蒐集につとめ、その成果の一部を得た。
4. この研究は、美術部情報資料部の共同研究により遂行するものである。昨年度より比較顕微鏡を導入し、本研究に一層の充実をはかった。

## C 科学研究費

### 「近代日本における画卷の研究」

(一般研究(B) 研究代表者 関 千代。分担者陰里鉄郎、

三輪英夫、宮 次男、田実栄子)

本研究は、古絵巻に比較し頗る遅れのみられる近代の画卷についての調査研究を行うもので、本年は主要作品の調査と基礎資料の蒐集につとめ、今村紫紅筆「熱国之巻」富岡鉄齋筆「月ヶ瀬図巻」等70余点に及ぶ大量の写真資料を入手し得た。

## 3 芸 能 部

### (1) 概 要

芸能部は、日本の伝統芸能に資するために必要な基礎的研究を行うことを目的とし、演劇研究室・音楽舞踊研究室・民俗芸能研究室の三室より構成されている。芸能部の研究目標としては、諸芸能の理念・構造・技法及びその継承保存に関する研究などがあり、その研究に必要な資料の収集・整備・記録の作成としての撮影・録音・録画などの作業を行う。また研究の結果は刊行・研究発表会・公開学術講座の開催などによって公表する。

本年度は、共同研究としては「狂言の技法の研究」「民俗芸能の民俗的基盤の研究」「民俗芸能伝承方法の研究」「民謡の研究」「話芸・寄席芸の研究」の課題に対して、研究員が2、3名ずつ組をつくって調査研究を行った。また、本年度より特別研究として「民俗芸能の有効な保存伝承方法の確立に関する調査研究」を開始し、山形県の黒川能、長野県の雪祭り、東京都の江戸神楽等を対象に綿密な調査研究を行った。

## 芸 能 部

また、各研究員は個々に研究課題を選んで実証的な調査研究を行いつつあるが、今年度は文部省科学研究費を受けての研究に「論義会の研究」「狂言の演技における型の研究」の2課題があった。

以上各研究員による共同・各個の諸研究は、いずれも文化財行政に直接間接に寄与する基礎的な調査研究であると同時に、従来立ち遅れ気味のわが国の芸能研究を推進せしめ、日本芸能学の樹立に貢献する基盤となる研究である。また研究所恒例の文化財の保存及び修復に関する国際研究集会を本年度は芸能部が担当し、「伝統芸能の保存と発展」のテーマで8月に開催した。また月例の研究会として、各研究室ごとに、外部研究者・芸能伝承者等の参加を得て、「能楽技法研究会」「二月堂研究会」「狂言伝書輪読会」「民謡研究会」等を行った。

### 演劇研究室

演劇研究室は、日本古典演劇について芸能学的・演劇学的に調査・研究を行い、またこれら諸芸能の周辺にあって、伝統芸能の成立に深い関係をもつ諸分野についても調査研究を進めている。

本年度は、個人研究として「寺院芸能の研究」「能の演出史の研究」を行い、共同研究として「狂言の技法の研究」を行った。また文部省科学研究費による研究として「論義会の研究」(一般研究(B)代表者 佐藤道子)の調査研究を、昨年度に引続いて実施した。

### 音楽舞踊研究室

日本の音楽及び舞踊について、芸術学的音楽学的な調査・研究を行い、またこれら伝統芸能の成立に深い関係を持つ周辺分野についても調査研究を進めている。

本年度の個人研究としては、昨年に引き続いて「日本民謡に見られる地域的様式の研究」を進め、鈴木正夫、藤堂輝明、早坂光枝の民謡をメログラフにかけて比較分析した。また日本のわらべ唄との比較において、インドネシアのわらべ唄を採譜・研究した。

また第4回国際研究集会「伝統芸能の保存と発展」の構成ならびに諸準備を行い、かつ研究集会記録(プロシーディングス)の編集を行った。

## 調査研究

### 民俗芸能研究室

全国各地に分布・伝承する民俗芸能を対象とし、それらの芸能の保存・活用に資するために必要な研究を行っている。本年度は、共同研究として「民俗芸能の民俗的基盤の研究」「民俗芸能伝承方法の研究」「民謡の研究」「話芸・寄席芸の研究」、また個人研究として「田楽芸の研究」「狂言の技法の研究」を行った。また文部省科学研究費による研究として「狂言の演技における型の研究」(一般研究(C)代表者羽田稔)を行った。

## (2) 研究調査活動

### A 一般研究

#### 1. 寺院行事の研究

寺院行事が内包する多種多様な要素の中から芸能的要素を抽出し、各宗派にわたる総合的比較研究を行い、その変遷・分化をあとづけることを一貫した目的とするが、本年度は「<sup>ひかゝる</sup>梅過会」の現存事例を求めて、近江の湖南・湖西、伊賀、若狹、佐渡各地の寺院の調査を実施し、伝承文書の撮影を行った。

また、昭和41年度以降継続的に実施している「東大寺修二会の調査研究」については、研究調査録第四冊刊行のための補足調査と撮影を、東大寺修二会の全期間にわたって実施した。(佐藤)

#### 2. 能の演出史の研究

能の演出面の変化を、面・装束・型・囃子などの構成要素の変遷をたどることによって探ろうとするもので、本年も「装束具」に関して文献調査等を行った。(松本)

#### 3. 伝統歌曲の音楽分析的研究

伝承・記録・保存のための基礎研究として伝統歌曲をメログラフを用いて音楽的に分析し、その音楽性を音楽学的に解明するもので、本年度は民謡「筑後しこみ」「豊後追分」「刈干切唄」「小諸馬子唄」「相馬流れ山」「紙鹿唄」「初摺唄」「山形盆唄」等について、装飾の歌唱法特に〈ツキ〉〈ユリ〉〈マワシ〉を中心に、鈴木正夫、藤堂輝明、早坂光枝の歌唱に見られる相違を比較分析した。(柿木)

#### 4. 海外舞踊譜の研究

英国で開発されたベネシユ舞踊譜の方法、実用性、楽譜との併記用法等に関して検

討し、日本芸能への応用の可能性を研究した。(柿木)

#### 5. 海外わらべ唄の比較研究

日本のわらべ唄との比較研究として、インドネシアのバリ、ソロ、ジョクジャカルタ、バンドンで採録したわらべ唄27曲について採譜、分析を行い、旋律法、リズム法、音組織等を明らかにしたほかに、遊びを伴うものに関しては、日本の子供達の遊びと共通するもの、日本には見られない独特なもの等について具体的にビデオ・テープを用いて分析した。(山本)

#### 6. 奄美民謡の研究

前年度に引き続き、奄美の民謡の資料の収集分析を行った。(山本)

#### 7. 民謡の研究

日本の民謡の研究において、民謡の芸謡的要素を無視してはその全き姿をとらえることができないという観点より、上代から近世に至る日本の民謡伝承の上に占める芸謡の位置を究明する目的をもって、前年度に引続き近世歌謡の分析を行い、あわせて童唄の遊戯唄の芸謡的要素についての調査研究を行った。また、毎月1回定期的に外部研究者及び演奏家を招いて研究会を催し、各種の討論討議を行っている。(仲井・三隅・柿木・中村)

#### 8. 民俗芸能の民俗的基盤の研究

芸能を、その行われる季節・場所・参加者(演者・観客を含む)などの面から取りあげる連続した研究の一環として、「道中の芸能」に関する調査研究を行った。(三隅・仲井)

#### 9. 民俗芸能伝承方法の研究

各種民俗芸能の伝承方法について資料の収集・分析を行った。(三隅・中村)

#### 10. 話芸・寄席芸の研究

落語を主として話芸・寄席芸を対象とする近世芸能の研究を安原コレクション邦楽レコードの整理を通じて続行中である。(三隅・仲井)

#### 11. 田楽芸の研究

田楽芸を機能的・形式的に細分類してみることによって、田楽芸の構造を明らかにするための調査研究を行った。(中村)

#### 12. 狂言の技法の研究

## 調査研究

前年度に引き続き、所外の研究者と共同で、江戸期の大蔵流・間狂言の台本(貞享松井本)を輪読し、間狂言の詞章及び演出の時代的変遷と流派的異同について調査した。(羽田)

## B 特別研究

「民俗芸能の有効な保存伝承方法の確立に関する調査研究」(4か年計画の初年度)

### 研究目的

民俗芸能の伝承を支える各地域の社会的条件を具体的に把握しながら、伝承条件の変化に対応する新たな伝承の仕方(継承者選定及び技法習得過程)について、各地域の関係者が具体的にどのように対処すべきかの方法論を示すための調査研究を第1とし、第2に民俗芸能の記録化の標準的かつ全国共通的な方法の確立に関する調査研究を、さらに民俗芸能の楽譜化及び舞踊譜化の方法の開発に関する調査研究を第3とする。

### 実施要領

1. 全国各地の民俗芸能の伝承状況を分析するためのアンケート調査を実施。
2. 伝承環境の異なる地域を選び、それぞれの地域における伝承方法と地域環境との関係を調査分析した。特に都市化・過疎化等の社会状況の急激な変化をみつつある地域の伝承形態の変貌についての調査分析を行った。
3. 全国各地から伝承法の典型例を十種余選出し、それぞれの伝承法の特徴を考察した。
4. 伝承法に関する各種資料を各地から蒐集し、それらを新規購入のマイクロリーダープリンターにかけて研究資料として活用した。
5. 民俗芸能に関する調査記録を収集し、かつそれらを比較しながらもっとも完璧な記録作成についての研究を行った。
6. 民俗芸能に関する楽譜・舞譜を蒐集し、より完璧な採譜方法についての研究を行った。

## C 科学研究費

論議会の研究(一般研究(B) 研究代表者 佐藤道子)

奈良朝以来、仏教儀礼を代表する法会の一つとして各宗派で勤修され、文学や芸能にまでその投影をみることのできる論義会について、勤修目的や形式の史的变化、文学への投影、芸能への影響などを解明することを目的とする。

本年度は、昨年度に引続いて諸寺の論義関係文書の調査(延暦寺叡山文庫)と論義会の実地調査(東大寺・建長寺・円覚寺)を行い、これと並行して、文献記載の論義会関係記事の抽出を行った。

## 2. 狂言の演技における「型」の研究(一般研究(C) 研究代表者 羽田 昶)

前年度に調査・撮影・収集した狂言小舞の譜本及びテープから、すべての「型」に関する記載をカード化し、狂言小舞の動作単元を分析的に把握することができた。なお、ビデオ・テープの整理、流派間の異同や能の動作単元との比較等の作業を続行中である。

# 4 保存科学部

## (1) 概 要

文化財の材質・構造に関する科学的研究、並びに文化財のおかれている保存環境の自然科学的研究を行い、これらを基礎として文化財の保存に関する技術的研究を行っている。研究の成果は文化財の指定・保存対策・修復処置の基礎資料として役立てられている。また文化財の年代測定・産地推定の基礎的研究も手掛けている。

研究組織は化学研究室、物理研究室、生物研究室の3室からなっている。調査研究の結果は、修復技術部との共同の機関紙「保存科学」により公表される。

### 化学研究室

文化財及びその保存に関する化学的調査研究(分析化学的調査研究を含む)並びにその結果の公表を職務としている。

内容としては、微量分析または非破壊分析による無機物質・有機物質の材質とその劣化に関する研究、展示・保存環境における汚染因子の究明とそれらの文化財への影響に関する研究、劣化防止に関する研究を行っている。

## 調査研究

### 物理研究室

文化財及びその保存に関する物理的調査研究並びにその公表を職務としている。文化財自体の構造・強度等の力学的試験を行い、X線・γ線のラジオグラフィによる内部構造、欠陥、虫害、腐朽の解明を行っている。また赤外線テレビによる銘記、下絵等の判読にリモートセンシングの手法を取り入れる試みを行っている。

また保存環境に関し、採光、照明、温湿度等の影響とその防止の研究を行うほか、展示、収蔵、梱包輸送の際の適正条件の設定と湿度調節技術を開発し、新施設を使用する必要な処置の研究を行っている。

### 生物研究室

文化財及びその保存に関する生物学的調査研究並びにその公表を職務としている。黴・細菌・昆虫等による文化財の被害調査並びに黴・細菌・昆虫等の採取・培養・同定及びそれらの殺菌・殺虫等の防除用薬剤の選定と方法の研究、実施の指導を行っている。

以上、各研究室担当研究員の専門分野に関する基礎的研究のほか、複合的な判断、処置を必要とする研究対象に対しては部内、部外(他研究機関を含む)との共同研究が行われている。

特別研究「石造文化財の保存、修復に関する科学的研究」は修復技術部との共同研究で、第4年次として、石造文化財及び付随する材料として、煉瓦・瓦類の焼成品、土壁、たたき等に関して、それらの劣化機構の解明、保存管理方法、及び修理技術の確立を総合的に推進させている。

受託研究は「史跡虎塚古墳彩色壁画保存のための調査研究」及び修復技術部と共同の、「国宝、重文日光社寺建造物に関する研究」が行われた。

## (2) 研究調査活動

### A 一般研究

#### 1. 文化財の材質・構造に関する研究

##### (1) 非破壊分析・微量分析

##### 1) 鉛同位体分析

昨年度より引続き、約 200 点の青銅器遺物について測定を行った。遺物の種類は日本出土の銅鏡、銅鐸、銅鉄、中国出土の銅鏡などである。この結果、多くの知見が得られたが、特に 1) 少なくとも前期古墳以前の出土遺物の原料は大陸のものであること、2) 弥生式遺跡出土物と古墳出土物の間には明瞭な差異があることが明らかになった。(馬淵)

(2) 漆及び漆工品に関する研究

1) 縄文時代の赤漆、黒漆に用いられていた顔料を分析し、黒漆の変遷を究明した。

2) 生漆を用いて、素地固めを行う場合、生漆の硬化と環境湿度また湿度と素地との接着の関係を明らかにした。

3) 漆かきの人と連絡をとり、現地より初漆、盛漆、枝漆を直送してもらい、分析、接着、光沢等の測定を行った。(見城)

(3) 法隆寺献納宝物特別調査 一東博一

白銅鏡調査に参加し、蛍光X線による成分分析、X線透視による構造調査を行った。(江本・石川)

(4) 赤外線テレビによる古文書の判読

茨城県石岡市鹿ノ子遺跡出土の漆紙の判読を行った。(石川)

(5) X線γ線による材質構造調査

愛知県岡崎市滝山寺藏木造観音菩薩・梵天・帝釈天立像の構造調査を行った。その他、金銅仏、工芸品等の調査を行った。(石川・三浦)

(6) リモートセンシングの文化財への応用

マイクロコンピュータを東大大型計算機センターのTSS端末として使用できるようになったので、画像処理方法の検討を続けている。(三浦)

(7) ガラス玉の屈折率のレーザーによる非破壊測定

ガラス玉の屈折率をHe-Neレーザーを用いて完全に非破壊的な測定方法で、しかも従来より1桁精度良く求めることに成功した。(東博と共同)(三浦)

2. 文化財の保存及び展示環境等に関する研究

(1) 施設内の環境調査

展示室・収蔵庫内の温湿度、照明等の環境の測定、新設展示施設のシーズニング

## 調査研究

の検討を行い、展示、保存環境の適否に関し調査を実施している。

- 1) 板橋区立美術館(東京)
  - 2) 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館(奈良)
  - 3) 岩手県立博物館(岩手)
  - 4) 京都国立博物館文化財保存修理所(京都)
  - 5) 醍醐寺収蔵庫(京都)
  - 6) 田部美術館(島根)
  - 7) 尾道市立美術館(広島)
  - 8) 東福寺収蔵庫(京都)
  - 9) 出雲大社神社殿(島根) (見城・石川)
- (2) 展示施設の照明光源は、蛍光灯が主に使用されている。つぎに白熱灯であるが、最近では演色性を改良したと云われているナトリウムランプを使用する動きがありそれらの光源の特性を調べた。(石川)

### (3) 密封ケース内微気象変化の制御の研究

- 1) 一定容積の密封器内の温度変動に伴う湿度変動とニッカベレット混合和紙の量との関係を明らかにし、混合和紙の最適使用量を求める。(見城)
  - 2) 温湿度可変室内に設置された実験用展示ケースを用いて、ケース内の温湿度分布と湿度調節剤の性質・配置方法との関係を調べている。新しく開発されたシリカゲルが従来使用されていたものより良い性能をもっていることがわかった。(三浦)
- (4) 文化財保存環境に関する研究

文化財に付着している汚染物質の組成を知ることは、材質の劣化原因や汚損の防除対策を究明する際、重要な事項である。

汚染物質の1つである粉じんについて、熱分解ガスクロマトグラフィーを用い、主に高沸点有機物(粘着性)の分析法を検討した。

炭素数11~38(沸点195~330°C)の飽和炭化水素標準試料を用いて分析条件を求めた結果、400°Cの試料加熱温度でカラムにDexil 300を用い、100°C~350°C昇温分析によってよい成績を得た。粉じん試料に適用性を検討している。

一方、環境中に浮遊している粉じん粒子についてパーティクルカウンターでそ

の挙動を測定すると共にアンダーセンエアー・サンプラーで粒子の大きさ別に採取した試料について組成分析をも試している。(門倉)

(5) 未発掘古墳内の空気組成についての研究

従来、空気組成として主に酸素・窒素・炭酸ガス等を測定してきたが、微量試料中のメタンについて、ガスクロマトグラフィーによる分析を試みた。

1 ml の空気試料でカラムにモレキュラーシーブを用いて分析した結果、密閉が完全な場合、外気 2～3 ppm に対し、古墳内では 0.1 ppm 以下であった。(門倉)

(6) 寺院堂内における自然採光の日変化の調査研究

浄土寺浄土堂(兵庫), 平等院鳳凰堂(宇治)堂内に射し込む自然光の照度変化を測定し、堂内の空間構成の特徴を研究した。(科学研究費・一般研究(A)代表者西村公朝の分担研究)(石川・富沢)

(7) 海外展梱包輸送に関する協力

- 1) 国宝・鑑真像 中国展
- 2) 琳派絵画展(米国巡回)文化庁

上記海外展の出展品に対して、梱包ケース内の調湿剤、防霉剤の調達等の協力を行った。

3. 文化財の生物劣化とその防除に関する研究

(1) 実態調査と防除対策

文化財に被害を及ぼす生物(微生物, 昆虫等)の実態調査は、継続的に実施し、被害の状況に応じて防除対策を検討して助言・指導を行っている。本年度は、下記の調査と防除対策を実施した。(新井・森)

- |                             |       |
|-----------------------------|-------|
| 1) 東京国立博物館・東洋館の燻蒸指導         | 55. 4 |
| 2) 埼玉県立歴史資料館燻蒸室の調査と助言       | 55. 5 |
| 3) 群馬県立歴史博物館の開館前の調査と燻蒸指導    | 55. 6 |
| 4) 増上寺経蔵及び収蔵庫の燻蒸指導          | 55. 7 |
| 5) 福井県坂井郡三国町立郷土資料館の燻蒸室設計指導  | 55. 7 |
| 6) 京都国立博物館において滅菌燻蒸法の講習と実地指導 | 55.10 |
| 7) 埼玉県立歴史資料館の新設燻蒸庫試運転指導     | 55.11 |
| 8) 大聖寺石造法華供養塔のホルマリン燻蒸指導     | 55.12 |

## 調査研究

- |                                 |       |
|---------------------------------|-------|
| 9) 東京国立博物館における燻蒸指導              | 56. 1 |
| 10) 国立歴史民俗博物館の開館前の調査            | 56. 2 |
| 11) 宮内庁書陵部の燻蒸指導                 | 56. 3 |
| 12) 東京国立博物館漆工室における中尊寺六角須弥壇の燻蒸指導 | 56. 3 |

### (2) 文化財の長期保存に関する研究

同時二軸延伸ポリビニルアルコールフィルム(BO-PVA)は、酸素を遮断する点で優れた性質を示す。燻蒸法等によって文化財に着生した加害生物を殺滅した後の保存に、BO-PVAフィルム製袋を応用する研究。(新井・森)

### (3) 微生物学的研究

- 1) 文化財に発生した糸状菌の水分活性を測定することにより、保存環境の湿度を推定し、さらに発生した糸状菌の防除法を考究する。(新井)
- 2) 文化財に着生する糸状菌が、材質を劣化する一因として、糸状菌の代謝する有機酸である可能性がある。前処理せずに微量の有機酸分析のできるイソトコフォレンス(細管式電気泳動装置)で研究中である。(新井)

### (4) 昆虫学的研究

- 1) わが国ではじめて遭遇した軸装のカマドウマによる被害について報告し、あわせて本邦でこれまでに認められている軸装の加害虫を網羅した。(森・新井)
- 2) 有機錫化合物は、主として殺菌剤として用いられてきたが、その中に殺虫剤として有効な化合物のあることが判明した。
- 3) ベルメトリンは、低毒性ピレスロイド剤であるが、残効性があるのでイエシロアリに対する防蟻効力試験を行っている。現在2年4カ月経過時の結果を報告した。(森)

### (5) 燻蒸法について

- 1) 博物館・美術館・資料館等の燻蒸設備を点検すると、燻蒸ガスが館内に漏洩する危険性のある設備が多いので、問題点を指摘した。(新井・森)
- 2) 既設燻蒸室を有効に活用する一方法として、安全かつ実用的燻蒸庫を設置した。(新井・森)
- 3) 燻蒸ガスは、種類によってきわめて透過性に優れている。燻蒸ガスのコンクリート壁体の透過性ならびに透過防止剤について研究し、燻蒸室建設時の資料

とした。(新井・森)

- 4) 本邦ではじめて4.5トントラックに減圧燻蒸装置を設備した移動燻蒸車を完成した。(森)

#### 高松塚古墳

11月石室内修復時に、石室内部の生物学的調査を実施した。

#### 特別研究

大聖寺石造法華供養塔に着生する地衣類・菌類及び細菌類の殺菌をホルマリン燻蒸で実施した。

#### 日 光

大猷院二天門漆塗膜の黒変について原因を究明してきた。その結果、年次別に試験塗装した3カ所の腰貫を詳細に検討すると、塗装時期の古い方が、黒変の程度が著しい。漆塗装の黒変と漆塗膜表面のカビの繁殖との間に相関関係が認められた。

#### 水中遺物

#### 4. 考古遺跡・遺跡等に関する考古学的及び保存に関する研究

##### (1) 江差・開陽丸引揚げ遺物の研究

各種の引揚げ遺物の保存処理及びその後の経年変化の点検、収蔵状況の調査、収蔵環境の保全の指導を行った。(江本)

#### 5. 国宝、高松塚壁画保存、修復事業への協力

石室内点検時、壁画修復期間中、開口時及び閉塞時の室内環境調査(温度・湿度・生物汚染)、壁画状態、保存施設・設備の点検等の調査を行い、作業環境保全に協力した。(江本・新井)

## B 特別研究

石造文化財—石及び類似材料の保存と修復に関する科学的・技術的研究(8年継続第4年次、保存科学部、修復技術部共同研究)

石造文化財及び付随する材料として、煉瓦、瓦類の焼成品、土壁、たたき等に関して、それらの劣化機構の解明、保存管理方法、及び強化修復技術の確立を総合的に推進させるのを目的としている。

## 調査研究

55年度は、下記の調査研究を行った。

### (1) 主な調査対象

(イ) 大分県野津町：津留平五輪塔(重文)

(ロ) 千葉県館山市：大福寺 磨崖十一面観音立像(市指定)及び舎那院 磨崖仏

(ハ) 香川県高松市：生駒親正夫妻墓(五輪塔・県指定)、以上の保存状態を現地で調査した。採取した風化生成物、析出物を分析、石材等の標本資料の作成を行った。また保存処置の試験を行い修復対策を立案した(ロ)については受託研究・修復技術部の項参照)

(2) 生物劣化については前年度調査した大分県・臼杵地方の石造品の劣化部位から採取した試料について、微生物を分析中、着生した地衣類の防除法につき検討を行っている。

(3) 板碑、石塔の収蔵庫内の環境に関し、前年度に引続き、埼玉県下で夏季の温湿度を測定した。

### (4) 強化保存処置。

劣化した石の強化の為の基礎実験として、各種薬剤(アクリル樹脂、エポキシ樹脂、シリコン樹脂、水酸化バリウム等)の含浸処置に関する研究は、長期に亘り継続的に行っている。本年度からは、従来から用いていた大谷石に加えて、砂岩質系安山岩(白河石)を材料としての実験も開始した。本年度は特に、樹脂含浸強化時における石の含水率と樹脂含浸率及び強化効果との関係について種々の基礎実験を行い、多くの知見を得た。

瓦の保存、修復に関しては、シラン(SS-101)含浸による強化防水処置について、54年度科研費(奨励A・西浦)で行った研究を更に進めると共に、装飾瓦(鬼瓦、軒瓦等)の人工擬瓦による成形修復について研究した。本研究成果を実際の重文建造物である定光寺観音堂で初めて実験に応用した。

(5) 過去に修復処置を実施した石造文化財の経年変化と修復に関する問題点を把握するため追跡調査を行っている。本年度は石川県穴水・重文 明泉寺五重塔について行った。

## C 受託研究

### 1. 虎塚古墳彩色壁画保存のための調査研究(茨城・保存科学部)

虎塚古墳は、昭和54、55年の2カ年計画で保存・公開施設の建築工事が進められてきたが、10月に完成し、彩色壁画が一般に公開された。

昭和55年度の受託研究は、公開が石室内環境におよぼす影響の有無に関する調査を行った。

保存施設は、観察室、前室、前々室の3室から成り、石室内は観察室のペアガラス窓を通して観察する。照明は、赤外線、紫外線吸収フィルターを用い、熱交換機を備えたカプセルを石室内に設置した。

公開は、10月18日から11月12日にかけて、2～4日間づつ、3回行われた。

石室内部への影響調査は、公開の前後に石室内及び観察室で温度、湿度、空気組成、微生物を測定し、特に公開期間中は、前室、前々室も加えて温度、湿度の連続測定を行い石室内部への影響を視視したが、石室内への影響はほとんどみられなかった。

照明装置、観察室の空調機の不備を補って、石室の環境保持のため、観察室の加湿、冷却等の対策を指導した。

照明装置については、発熱に対する、熱交換法の基礎的実験を行い設計の資料とした。

### 2. 国宝、重文日光社寺建造物の保存に関する研究

(栃木・保存科学部・修復技術部)

日光二社一寺所管の指定建造物の外装として用いられている漆塗装・彩色について、山内の多湿寒冷という特殊環境下での劣化、変色等の原因究明と保存対策を立てるのを目的としている。

#### 1) 東照宮本殿、透塀格狭間、唐油彩色

##### a 唐油彩色の変退色の原因究明

前年度の光に弱い染料による調査結果を基にして、同一染料3種について、分光照射計により、どの波長の光による変退色であるかを究明している。

b 変退色防止対策として、唐油に酸化防止剤を溶かし、顔料を加え彩色した手板を、前年度、現場に設置したが、その後の変化の確認調査を近々行う予定である。

## 調査研究

- c 防黴法 唐油彩色に発生するカビの防除法として、前年度、チモールを溶解した唐油により作成した彩色手板の曝露試験の効果判定を近々行う予定である。

### 2) 大猷院 二天門溜塗の変色

二天門等で漆が黒変する現象を研究してきたが、黒変には3種類が存在しているように思われる。

- ① 漆液が流れて黒変したもの(二天門)
- ② 黒色の盛り上った斑点状のもの(東照宮城下門)
- ③ 漆表面の透明な膜面中に黒斑の生ずるもの(二天門)

このうち②、③は、微生物(カビ)に起因する黒変であることが判明した。また黒変部を採取した試料を薄層クロマトグラムで分離し、同定中で、どんな成分が変質したかを、漆に関連する材料から探索している。

## D 科学研究費

昭和55年度より、文部省科学研究費「特定研究」に「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」の領域が定められ、3年計画で、研究が開始された。当研究所両部関係の研究課題として下記のものがある。

### 1. 文化財建造物の構造力学的研究

代表者 伊藤 延 男

### 2. 遺構断面層序の剥ぎ取り保存及び具層断面の保存法

代表者 田 辺 三郎助

### 3. 水中遺物の保存に関する研究

代表者 江 本 義 理

56年度は、研究課題の統合が行われ、課題の件数がしばられて計画研究として実施される予定である。

### 4. 古代漆の科学的研究

代表者 見 城 敏 子

この研究の目的は、(1)縄文時代の漆、タールの漆工法、赤色顔料の種類を明らかにし、考古学的見地から漆工技術の究明を行う。(2)縄文時代の黒漆の判定、製法・種類の判定等の検討を行い、この時代の技術を明らかにする。今年度は、現地の辨柄・朱

漆に使用されたと思われる鉱石を採取し、湿式、原子吸光、熱分析を行い、先年度実施した漆塗膜の分析結果をあわせて、考古学的見地から、縄文・古墳時代の漆工技術をまとめた。また縄文・古墳時代の黒漆の判定、その種類の判定等の検討を行い、この時代の製法漆工技術を明らかにした。

## 5 修復技術部

### (1) 概要

修復技術部は、文化財の修復に関する科学的、技術的調査研究とその公表を主務とする部で、保存科学部が、主に文化財の保存にかかわる科学的分析研究をつかさどる部であるのに対し、修復技術部は、老化破損し、あるいは後世の付加物のある文化財について、もとの正しい状態に修理し、あるいは復元する方法についての科学的、技術的研究を担当している。

研究対象としては、絵画、書跡、彫刻、工芸品、考古資料などは勿論、木造構造物の組織や細部に描かれた絵や彩色石造構築物などに及ぶ極めて広範囲の文化財があげられる。

研究組織としては、3研究室6研究員1専門職員からなっている。

#### 第一修復技術研究室

木材及び漆を主材料とする文化財の修復に関する科学的・技術的調査研究とその結果の公表を主務とする。

#### 第二修復技術研究室

紙、繊維又は皮革を材料とする文化財の修復に関する科学的・技術的研究とその結果の公表を主務とする。

#### 第三修復技術研究室

石、金属、土又はその他の無機材質の文化財の修復に関する科学的・技術的研究とその結果の公表を主務とする。

各研究室とも、経常的な研究として、有形文化財を構成している材料、構造、製作

## 調査研究

技法についての研究や、それらを修復するための伝統技術の整理体系と科学的裏付けの資料集積、そして更に科学的な材料、技法の修復への応用と開発のための臨時的な研究などを実施しており、とくに材質強化、補強、接合、剝落防止、朽損部充填等について各種合成樹脂の応用と技法の開発に努めている。

これらの研究過程においては、保存科学部との共同研究が必要な部分もあり、また部内においても、一つの文化財が二つの研究室にまたがる複合的な材質からなる場合も多く、それらについては各研究室員による共同作業によって研究が進められている。これらの詳細は次項に記す通りである。

特別研究「石造文化財の保存・修復に関する科学的研究」は、3カ年の継続研究の第3年度として、文献収集、調査、実験研究を行った。(27頁参照)

受託研究のうち修復技術部の関係では、

- (1) 虎塚古墳彩色壁画保存のための調査研究(保存科学部と共同研究)
- (2) 国宝、重文日光社寺建造物の保存に関する研究(保存科学部と共同研究)
- (3) 城山遺跡出土漆器の技法的調査とその処置法の研究
- (4) 仙台市伊達政宗墓所出土副葬品の保存処置に関する研究
- (5) 高松市生駒親正夫妻墓(石造五輪塔 県指定)の保存処置の研究、

を実施した。

## (2) 研究調査活動

### A 一般研究

#### 1. 伝統的製作技法及び修復技術の研究

##### (1) 彫刻の製作技法、修復に関する実査研究

前年に引続き、東京国立博物館の依頼による法隆寺献納宝物中の仮楽面調査に参加、その材質技法の調査、特に木屎、漆地粉について顕微鏡による観察を行った。

(田辺・中里)

##### (2) 漆芸品の研究

大宮市寿能遺跡出土の漆器断片について技法的調査を行った。又シアトル市から茶の美術展出品のため里帰りした浦島蒔絵手箱、新指定の螺鈿合子、大阪市立美術館寄託カザールコレクションの一部等を調査した。中世漆器では草戸千軒町遺跡出土、福

井県出土の漆碗等の調査を行った。伝統的技法の調査としては横浜市に残る芝山細工その他も記録にとどめた。(中里)

### (3) 出土金属工芸品の製作技法の研究

製作技法の蒐集と調査研究は継続して行っているが、修復処置を通じてこれを実施するとともに、本年度は埼玉附川7号墳、塚本山19号墳などから出土した象嵌遺物の調査を行った。(青木)

### (4) 装演技法の研究

伝統技術としての装演技法に関する資料蒐集と調査研究は継続している。

日本の掛軸装の形式と関連して、ネパール・チベットのタンカに於る形式を調査し、分類を試みている。

日本画用材料としての三千本膠の製造を調査記録した。

奈良時代写経料紙の復元実験で得た麻紙に対する打加工実験を行った。(増田)

中国における紙・絹本画保存・修復の文献調査を行った。(鶴田)

## 2. 合成樹脂による彩色保存の研究

県重要文化財 東照宮本殿(和歌山県)建築彩色の剥落どめに関し、水溶性アクリル樹脂及びアクリルエマルジョンによる方法と膠水による方法について調査した結果に基づき、県教委の係官と彩色施工業者に研究所のアトリエにおいて処置方法を指導した。(樋口)

重要文化財 本興寺開山堂(兵庫県尼崎市)の小火の際、粉末消火器で内部の彩色が汚損し、その除去方法について調査し、処置を指導した。その方法は消火剤が長年の香の燻煙で褐色の脂状物質で覆れている彩色表面に付着していることに着目し、この脂はアンモニアの微アルカリ水に容易に溶けることを利用して白色汚損の除去に成功した。幸いこの彩色は保存状態がよかったのでこの処置による損傷は全くなかった。処置後若干白さが残るが、これはアクリル樹脂B72溶液で処置することでほとんど目立たなくなり、剥落どめも兼ねることになった。これらの処置は彩色業者により全面に施工され、所期の目的を達することができた。(樋口)

## 3. 木造文化財の合成樹脂による修理技術の研究

宮城県蔵王町的重要文化財 吾妻家住宅の半解体修理において、口径約25~30cm、長さ970cmに及ぶ細長い松材の梁が、内部が白蟻で空洞化しているため再用できな

## 調査研究

い状態であったが、意匠的にも重要な梁であり、これを合成樹脂処置によって補強、修復した。この梁はうりのある細長ものなので、従来のように内部を抉りとって新たな通し材を挿入して補強することができない。種々検討の結果、軸方向に中央部から引き割って空洞部分を木材や合成樹脂で充填補強した後、再び元通りに接合する方法を採った。樹脂充填を要する空洞部分は約 $0.2\text{m}^2$ に及ぶため、全てを人工木材で行うと重量的にも費用の面からも無理があったため、空洞の一部は硬質低発泡ウレタン樹脂を用いた。またこのウレタン樹脂は、根本より頂部まで完全に空洞化した栗材の独立柱2本の充填にも用いられ効果的であった。因みにこの樹脂は比重 $0.46\sim 0.28$ 、圧縮強度 $60\sim 30\text{kg/cm}^2$ である。このような構造用部材の失なわれた強度を合成樹脂の充填だけで修復し、再用した例は今回が初めてであり、今後の木造建造物部材の修復に影響するものと考えられる。(樋口)

山口市の重要文化財 古熊神社拝殿の解体修理に際し、表面だけが虫蝕孔で海綿状になった斗拱や柱の修復方法を指導した。その方法は揺変エマルジョンに微木粉と微細なガラスビーズを混合し、更に顔料で調色したものを虫蝕孔にすり込んだ後に、部材の表面を水で拭きとって虫蝕孔だけに樹脂を充填するものである。これは従来のエポキシ系人工木材によるものと異り、虫蝕孔だけを対象にしたものであり、この樹脂はこの他、法隆寺宝物館の伎楽面の虫蝕孔の孔うめにも他の修理技術者によって使われた。(樋口)

### 4. 石造文化財の修復処置に関する研究

石造関係では特別研究、受託研究以外に美術院国宝修理所が修理した大分県的重要文化財、山王石仏と三重県の新大仏寺重要文化財阿弥陀如来像台座の修理に際し、アルキルアルコキシランによる含浸強化処置を指導した。また北海道の重要文化財函館区公会堂の修理に際し、石造部材の合成樹脂による強化、補修方法につき指導した。(樋口)

大分県野津町・重要文化財五輪塔の保存修理にあたり、脆弱になった五輪塔を硬質ウレタン樹脂を現場発泡させて養生し、仮設小屋に移動した。なお今年度は覆屋のみを建築し五輪塔の修理は来年度実施される予定である。(青木)

金沢市、石川県立郷土資料館(旧四高)の修理工事に際し、雨漏りの原因探査、防水処置方法、劣化したレンガ及び飾石の強化処置等についての調査、指導、及び沖縄県

那覇市、重文・園比屋武御嶽石門解体修理計画立案に伴う、放置されていた当初石材の再使用の可否について、強化処置方法を含めて調査、検討を行った。(西浦)

又、長崎県平戸市、重文・幸橋の解体修理に伴う、大量の石材の塩抜き及び含浸強化処置方法について、調査、検討、指導を継続的に行っている。(西浦)

## 5. 金属製品の修復処置

長崎県美津町黒瀬観音堂で新に発見された新羅金銅仏の銅造如来立像は、鍍金の損傷によるためか、後世に像全体に漆箔が施されており、原形が著しく損われているので、この漆箔を除去することになった。しかし、この漆箔の除去は容易でなく、種々の溶剤による除去を検討したが結局、フェノールの濃厚溶液を浸した脱脂綿で湿布し、更に赤外線を加温して漆を膨潤させて剝がしとり、後で完全に水洗する方法を採った。この処置で像は完全に旧に復し、遺っていた鍍金もすべて再現させることができ、後にこの像は重要文化財に指定された。(樋口・青木)

東京国立博物館保管の石川県鹿島町出土銅鏡、福岡県飯塚市楳山古墳出土金属製品一括、群馬県伊勢崎市恵下古墳出土金属製品一括、京都府京北町周山廃寺出土金属製品一括、栃木県足利市十二天塚古墳出土鬘頭状鉄器ほか茨城県牛堀町観音寺山古墳出土金属製品一括、福島県郡山市洲ノ上1号墳出土頭椎大刀1口、奈良県橿原市新沢327号墳出土竜文象嵌直刀1口、東京都大田区久ヶ原横穴出土象嵌円頭柄頭1口等の修復処置を実施した。

これらのうち、銅製品に対しては、ベンゾトリアゾール処理を行い、アクリル樹脂を減圧含浸した。鉄製品はアクリル樹脂エマルジョンを減圧含浸して材質強化を行った。またこれらの復原補修は合成樹脂を用いた。(青木)

## 6. 遺跡・遺構・遺物の保存に関する研究

松本城旧二の丸跡から各種の遺物が出土したが、その中で焼損炭化建築部材の硬質ウレタンによる取り上げ、井戸底板のPEGの拡散法による処置、骨製品のバラロイドB72による強化、かまどの応急強化処置などについて協力・指導した。(樋口・青木)

埼玉県大宮市寿能泥炭遺跡から大量に出土する木製品と漆器などの保存処置につき調査・協力を行っている。(樋口・青木)

## 7. その他

重要文化財 吾妻家住宅(宮城県蔵王町)の半解体修理に際し、土間の独立柱の部分

## 調査研究

に荒縄をまきつけ、その上に塑土をつけ、目には貝殻、口もとを陶器の小皿で飾った土俗的な鬼面がかまど神としてついていたが、これが損傷して崩れかけていた。この修理はまず発泡ウレタンで面を養生して柱から脱し、当研究所の修理アトリエに運び入れ、バラロイドB72による含浸強化、エポキシ樹脂による接着、エポキシエマルジョンと土の混合物による欠失部分の補修を行った。これらの処置は新井榛名氏によって施工された。(樋口)

福岡県福岡町の諏訪神社及び金比羅神社の絵馬約80点(一部県指定重要文化財)の実査を行った。各絵馬についての損傷程度を、写真等によって記録し、今後の保存のための処置実施指導の資料とした。(茂木)

新潟県寺泊町の白山姫神社の船絵馬52点は、保存処置も済み国指定重要民俗文化財として、専用の収蔵庫内に展示されている。この度、新たに船絵馬数点が発見され、その保存処置について、現地で実査の上指導した。(茂木)

福井県勝山市の白山神社絵馬は、町指定重要文化財になっているが、その彩色保存処置について依頼があり今年度は「牛若丸之図」「黒馬之図」を当部で実施した。(茂木)

## B 特別研究

### 1. 保存修復処置

劣化した石の強化のための基礎実験として、各種薬剤(アクリル樹脂、エポキシ樹脂、シリコン樹脂、水酸化バリウム等)の含浸処置に関する研究は、長期に亘り継続的に行っている。本年度からは、従来から用いてきた大谷石に加えて、砂岩質系の安山岩(白河石)を材料としての実験も開始した。本年度は特に、樹脂含浸強化時における石の含水率と樹脂の石材中への含浸率及び強化効果との関係について種々の基礎実験を行い、多くの知見を得た。(西浦)

石造物の修復に用いる人工擬石について、シラン(SS-101)とアクリル樹脂、及びシランとエポキシ樹脂の混合物による樹脂擬石について、実験、検討し、それらが非常に有効であるとの結果を得た。(西浦・樋口)

瓦の保存、修復に関しては、シラン(SS-101)含浸による防水強化処置について、54年度科学研究費(奨励A、西浦)で行った研究を更に推し進めると共に、装飾瓦(鬼瓦、軒瓦等)の人工擬瓦による成形修復について実験研究を行った。本研究成果を実

際の重文建造物である愛媛県、定光寺観音堂で初めて実験的に応用した。(西浦)

過去に修復処置を実施した石造文化財の経年変化と修復に関する問題点を把握するための追跡調査を行っているが、本年度は、石川県、重文・明泉寺五重塔、沖縄県、重文・放生橋、天女橋、玉陵について行った。(樋口・西浦)

## C 受託研究

### 1. 城山遺跡出土漆器の技法的調査とその処置法の研究(静岡)

城山遺跡は伊場遺跡にほぼ近接する中世の遺跡で、漆碗類が16点ほど出土した。

これらの漆碗はほぼ完形の一点を除いて断片で、黒漆塗、朱塗(辨柄塗)、内朱外黒漆塗等変化に富んだ塗漆が見られる。ただ下地は例外なく炭粉の蒔地で、錆下地等のものは含まれていない。木取りもすべて横挽きで、材は樺等の広葉樹である。

出土漆器の処置法としては従来PEG法、真空冷凍乾燥法、アルコールエーテル法等があるが、これらを並行して処置を試みると同時に、アルコールエーテル法ではパラキシレンを試用した。この溶剤は13°Cで凝固する性質を持ち、その性質を利用したものである。処置前に型取りを行って処置によってどの様な変形が生じるかの試験も行ったが、PEG法ではほとんど収縮は認められなかった。

### 2. 仙台市伊達政宗墓所出土副葬品の保存処置に関する研究(宮城)

今年度は新たに白梅蒔絵手箱に関する処置法の研究と銅製品の保存を取上げた。

白梅蒔絵手箱は出土時から大きく変形し、未開封のまま置かれたが、内容物はX線透視でしかわかっていなかった。

蓋は木部をまったく失い漆膜のみであったので、これを出来るだけ大きな断片として剝離させ、変形を防ぐためアクリル板に狭んで保存した。蓋漆膜除去によって判明した内容物は5×6cmほどの墨と筆巻又は筆軸と思われる残欠で、漆塗りの細棒が一本内在した。

身箱はまだ木部が残存し、ややつぶれた状態だが、形は一応整っていた。

なおこの箱の特殊な技法としては、下地を施さず、そのかわりに薄い皮を貼って、その上に塗漆している状況が把握出来た。

今年度はこの状態で終え、来年度蓋身の漆膜は新造した箱に貼付ける処置を考えている。

## 調査研究

銅製品はアクリル樹脂による含浸強化を計り、錆等は除いて整形した。

### 3. 香川県史跡高松市・生駒親正夫妻墓の保存処置（香川）

この処置は、特別研究「石造文化財の保存・修復に関する科学的研究」の一環として石造の修復技術確立のため実施したものである。

角礫凝灰岩製の五輪塔で総高3.09m、と2.9mの2基がある。風化が著しく、表面が粉状や層状に剥落して梵字など全く判らなくなっている。処置は石全体をフランネルで包み、アルキルアルユキシラン(SS-101)を含浸して石材表面の強化を計り、大きな亀裂や欠損部はエポキシ樹脂（アラルダイトCY230 硬化剤エポメートB002）細かい亀裂にはアルキルアルコキシランにアクリル樹脂（パラロイドB72）を溶かして充填接着した。欠失部はエポキシ樹脂に同種の石粉を混和した樹脂擬石にて復原補修した。

### 4. 国宝・重文日光社寺建造物の保存に関する研究（栃木）

（保存科学部と共同研究29頁参照）

## D 科学研究費

### 1. 日本古代の螺鈿技法の実証的研究（一般研究(D) 研究代表者 中里寿克）

螺鈿が工芸品に応用されるのは奈良時代からで、鎌倉時代に頂点に達した。この研究では各時代に遺された螺鈿遺品について、主に実体顕微鏡、X線透視撮影等を用いて、螺鈿の切断技法、接着技法、加飾法等を実証的に調査した。

今日までも幾つかの遺品を調査しているがここでは末調査の古神宝類（春日大社、厳島神社）、中尊寺螺鈿什器類等を主に調査し、更にその範となったと思われる唐螺鈿鏡数点、鎌倉時代螺鈿鞍数点も実見した。

この調査によって奈良時代から平安、鎌倉時代にかけての螺鈿技法の流れが一応把握出来たと考えている。

### 2. 古建築保存処置へのシランカップリング剤の応用

（奨励研究(A) 研究者 西浦忠輝）

石造建築物の石、レンガ、コンクリートや、木材建築物の瓦、土壁等のシリカ系無機質部材の保存処置としては、シリコーン系樹脂（シラン）を含浸して強化するのが最も効果的であるとされている。しかし、劣化が特に激しい場合にはアクリル樹脂、エ

## 情報資料部

ポキン樹脂等、凝集力の大きな有機系の樹脂が用いられる。しかしながら、これら有機系樹脂は無機系のシリコン樹脂と異り、石等の無機系材料と化学結合しないので処置効果の耐久性に問題がある。そこで、シリカ系無機質材料と有機系樹脂の両方に同時に化学結合する性質を持っているシランカップリング剤の併用が有効ではないかと考え、基礎実験を行い検討した結果、次の知見が得られた。

- (1) アクリル樹脂、エポキシ樹脂ともに、シランカップリング剤の併用により、シリカ系石材に対する強化効果は増大する。
- (2) 併用方法としては、樹脂に混合するよりも、あらかじめ被処理材の側にシランカップリング剤を浸み込ませておく(前処理)方が効果的である。
- (3) シランカップリング剤の併用効果は、劣化促進処理により大きく現われる。即ち、耐久性の改善に大きく寄与している。

## 6 情報資料部

### (1) 概 要

情報資料部は、従来美術部資料室の行ってきた美術に関する研究資料の作成、収集、整理、保管等の業務を充実発展させ、さらに研究所各部の所掌にかかる資料を対象とすることを目的として昭和52年4月に発足した。当部はその資料を文化財関係事業のみならず、国の内外の研究者の利用に供して、文化財に関する研究資料センターの役割を果たしている。当部研究員はこれら業務を行うとともに、各専門領域における調査研究を進め、その成果を機関誌「美術研究」及び美術部・情報資料部合同で毎年開催される公開学術講座などで発表している。

研究組織は文献資料研究室と写真資料研究室の2室よりなる。

### 文献資料研究室

研究文献資料の収集、整理、保管、閲覧等の業務を分担するとともに、毎年、日本・東洋古美術に関する雑誌論文及び単行図書を分類集録した文献目録を編纂し、美術史学界はじめ関連学界に貢献している。定期刊行物所載古美術関係文献について、前回の昭和11～40年の目録に引続き、昭和41年以後の目録作成のための準備を続行し

## 調査研究

ている。

これらの業務のほか、当室研究員は、日本・東洋古美術各分野で、専門的調査研究を進めてその成果を公表し、また落款・印章に関する特別研究に参加している。

## 写真資料研究室

研究用写真資料の作成、収集、整理、保管等を行う。本年も、従来通り各研究者の調査研究活動に同行して研究資料を撮影し、写真資料を作成した。また、それと平行して、美術研究所時代から撮影しているガラス製写真原板のフィルム面が、剝離剝落や劣化が進んでいるので、転写し直す作業を実施した。

これらの作業のほか、当研究室員は日本・東洋古美術について専門的な調査研究を進めその成果を公表した。他機関の科学研究費による特定研究 1「科学的調査法による日本洋古代中世絵画の実証的研究」(代表者 学習院大学 秋山光和)に参加した。

## (2) 研究調査活動

### A 一般研究

#### 1. 日本及び中国・朝鮮の古代彫刻の研究

##### (1) 日本の古代彫刻と中国・朝鮮の仏像との比較研究

わが国の古代仏と諸外国の仏像との比較に関しては、4月に韓国の慶州南山の石仏、10月に中国敦煌石窟及び炳靈寺の仏像等の調査を行った。また薬師寺講堂の如来三尊像の科学的調査も合わせて行った。(久野)

##### (2) 渡来仏の研究

国内にある中国及び朝鮮仏の調査に従事した。(久野)

##### (3) 東アジアの石仏の研究

韓国慶州、中国敦煌の他、5月にはボルブドールの石彫の調査を行い、国内では諸地方に散在する石仏を踏査した。(久野)

#### 2. 東洋絵画史研究

##### (1) 中国絵画研究

日本古代中世絵画に多大の影響を及ぼした中国絵画について、敦煌石窟壁画をはじめ

## 調査研究

め蘭州、酒泉、上海、蘇州の各博物館所蔵の中国絵画を現地調査した。

(上野・口関・江上)

(2) 高麗仏画の調査を続行、京都国立博物館と大和文華館で、これまで未調査だった数点及び新出の資料について調査を行った。(上野)

(3) 高麗写経の装飾ならびに高麗版経中の挿図の調査研究を行った。(江上)

(4) 敦煌石窟の現地調査に伴い、壁画の編年及び絹絵作品の編年について研究を続行した。(上野)

(5) キジル壁画及びベゼクリク壁画についての研究継続中。(上野)

### 3. 日本古代中世絵画研究

#### (1) 仏教絵画研究

丸岡家蔵鳥栴瑟摩明王図、千葉県宝珠院蔵両界曼荼羅、同寺蔵弘法大師像の調査ならびに佐倉市教安寺蔵仏涅槃図、千葉県宝珠院蔵仏涅槃図の調査。(関口)

薬師寺蔵吉祥天図、慈恩大師図の調査を行った。(米倉)

#### (2) 仏教説話画研究

富津市真福寺蔵八宗論図、聖衆来迎寺蔵六道絵の調査。(関口)

#### (3) 高僧伝絵の研究

法然上人伝絵研究の一環として妙定院本(9巻本)、増上寺本、東博本、光照寺本(掛幅本)、妙源寺本(同)、岡山県博本(断簡)の調査を行った。(米倉)

### 4. 日本近世絵画の研究

#### (1) 近世障屏画の研究

東京及び京都を中心に個人コレクション所蔵の障屏画作品の調査研究を行った。

(鈴木)

#### (2) 関東南画の研究

埼玉県本庄市、深谷市を中心に金井島洲の作品の調査と関連資料の収集を行った。

(米倉・鈴木)

### 5. 東洋古代文様史の研究

インドネシアのポロブドールその他の遺跡において、中国との関係を含む文様史の調査研究を行い、また中国敦煌において、六朝から宋にいたる壁画、天井画中の文様を調査研究した。(江上)

### 6. 東洋美術に関する交流関係資料の研究

## 調査研究

56年度開催の「東アジアにおける美術交流」のシンポジウムに備えて、関係文献の調査収集研究を行った。(上野・江上・米倉)

### B 科学研究費

古彫刻の構造の検出方法に関する研究(特定研究(I) 研究代表者 久野 健)

古彫刻の内部に使われている釘などの寸法と位置を、X線立体写真の実体視による観察と一対の写真画像からの計算処理によって定量的に求める方法を研究した。まずモデル実験を行なって測定精度を確認し、実際に仏像を調査するときの寸法の精度を推定することにした。相対誤差がほぼ7%で、仏像の解体修理前の情報としては有効な精度であったので、この方法により岡崎市滝山寺帝釈天立像を調査し、その構造に関して種々の知見を得ることができた。

## 7 主要研究業績

### 所長室

伊藤 延男(所長)

- |                |                  |          |
|----------------|------------------|----------|
| ② 日本建築の古典      | 週刊朝日「百科世界の美術」106 | 55. 4    |
| ② 城郭建築(作品解説とも) | ” ” 118          | 55. 6    |
| ③ 空からみた造型      | ” ” 106~139      | 55. 4~11 |
- 大阪城、丸亀城、五稜郭、彦根城、さきたま古墳群、仁徳陵、石舞台古墳、平城宮跡、藤原宮跡、西都原古墳群神宮(内宮)、住吉大社、竹生島、平安神宮、北野天満宮、厳島神社、賀茂別雷神社、春日大社、法隆寺、興福寺、教王護国寺(本寺)、本願寺(西)、慈照寺、清水寺、大徳寺、唐招提寺、京都御所、桂離宮、鹿苑寺、栗林公園、六義園
- |   |              |       |
|---|--------------|-------|
| ⑥ Study of cost control of architectural conservation projects in Japan | ユネスコに提出      | 55. 5 |
| ③ 動的映像の保護保存に関する報告   | 文化庁月報        | 55. 6 |
| 政府専門家会議に出席して  |              |       |
| ② 東大寺大仏殿背後の山の築造をめぐる   | 仏教芸術131      | 55. 7 |
| —文化財保護の原点を探る—   |              |       |
| ② 文化財保護の理念と法律   | 「文化財虫菌害保存必携」 | 55. 8 |

主要研究業績

- ② Conservation Within historic buildings in Japan  
Preprints of the Contributions to the Uena Congress 55. 9
- ⑥ 茶で結ばれた日本の美 サンケイ新聞 55.10
- ② The safeguarding of historic districts in Japan  
Warsaw Simposium of ICOMOS 55.10
- ② 未曾有の大伽藍 「日本古寺美術全集」4. 55.11
- ③ 図版解説 東大寺 金堂, 南大門, 法華堂, 鐘楼, 念仏堂, 転害門, 開山堂,  
新薬師寺 本堂 「日本古寺美術全集」4. 55.11
- 美 術 部
- 川上 溷 (美術部長)
- ④ 正倉院の絵画 台北・中央研究院主催国際漢学会議 55. 8  
田村 悦子 (主任研究官)
- ② 法然寺本地蔵靈驗絵巻の逸出した詞書—古筆粟田切について  
「新修日本絵巻物全集」29 55. 4
- ③ 来月には賀茂祭 蜻蛉日記絵詞について 北日本新聞 55. 4
- ③ 5月の感想 旧曆卯月と蜻蛉日記絵詞 秋田魁新報 55. 5
- ③ 『去夏帖』の用語について 材か村か 大東文化322号 55.12
- ⑤ 親鸞上人の書について 昭和55年度重要文化資料選定協議会 55. 7  
柳澤 孝 (主任研究官)
- ① 在外日本の至宝 1仏教絵画(編著) 毎日新聞社 55. 9
- ② 天平絵画の展開(並びに作品解説) 朝日百科・世界の美術106 55. 4
- ② 正倉院の絵画(並びに作品解説) " 107 55. 4
- ② 鎌倉時代の絵画(並びに作品解説) " 113 55. 5
- ② 同 仏教絵画(並びに作品解説) " 113 55. 5
- ② ポストン美術館蔵の四天王図—新発見の麁寺永久寺真言堂障子絵—  
在外日本の至宝1 55. 9
- ② 称名寺金堂壁画考 三浦古文化28号(刊行 56.3) 55.11
- ③ 東京芸術大学蔵醍醐寺五重塔壁画又部像, 明王部図像  
東京芸術大学蔵品図録絵画I(刊行9月) 55. 3

調査研究

- ③ 地獄草紙 断筒(ボストン美術館蔵, シアトル美術館蔵), 観普賢経見返絵, 尊円法親王像 在外日本の至宝2 絵巻物 55. 5
- ③ 釈迦靈鷲山説法, 九曜七星降臨, 大威徳明王, 弥勒如来下絵, 金剛界曼荼羅諸尊図様, 愛染曼荼羅, 九曜秘曆, 火曜星 在外日本の至宝1 55. 9
- ③ 馬頭観音, 普賢延命菩薩, 一字金輪 原色日本の美術27 在外美術(絵画) 55. 11
- ④ 称名寺金堂壁画考 美術部・情報資料部研究会 55. 12  
猪川 和子(主任研究官)
- ② 塑像について 特定研究古文化財報告書 55. 3
- ③ 石工 偉才(貞治の石仏)石仏紀行 暁教育図書 55. 11
- ③ 石仏のみかた 同 同 55. 11
- ⑤ 観音彫像 美術部・情報資料部公開学術講座 55. 12  
田實 榮子(主任研究官)
- ① 紀州東照宮の染織品 芸艸堂 55. 7
- ④ 片倉家伝来黒緇子小袖の修復経過について 第3回古代染織サロン 56. 2
- ② 紀州東照宮の伝徳川家康所用小袖四領—紀州東照宮染織品調査報告二— 美術研究316 56. 3
- ② 紀州東照宮に伝えられた家康公の御着服 大日光53号 56. 2  
陰里 鉄郎(主任研究官)
- ② 川原慶賀について 「川原慶賀展」目録・西武美術館 55. 4
- ② 日本の近代洋画の先駆者たち 「近代洋画の先駆者たち展」目録・中日新聞社 55. 4
- ② 近代洋画の発足と展開 朝日百科「世界の美術」131号 55. 9
- ② 明治中期から大正昭和初期における滞欧画家たち「日本の洋画家における滞欧作展」 北九州市立美術館 55. 10
- ② 大正・昭和の美術 「図説・日本の文化史」小学館 55. 11
- ② 農画工・小川芋銭の写生 「小川芋銭の写生」グラフィック社 55. 12
- ③ 若杉五十八筆「鷹匠図」ほか, 7点 「芸大蔵品図録」絵画II 55. 6
- ③ 関根正二筆「死を思ふ日」 美術研究 315号 55. 12

主要研究業績

- ③ 川原慶賀筆「近世職業図鑑」1～3  
 The Lion in Japanese(ライオン誌)23-8～10 56.1～3
- ⑤ 150年ぶり里帰りの川原慶賀 日本工業クラブ 55.6
- ⑤ 亜欧堂田善と江戸洋風画 町田市立博物館 55.10
- ⑤ 近代洋画の人間像 山口県立美術館 55.10
- ⑤ 明治初期の美術——狩野芳崖・高橋由一を中心に  
 ユネスコ東アジア文化研究センター専門委員会・アジア諸文化の特色 56.1
- ⑤ 日本の水彩画と萬鉄五郎 岩手県立博物館 56.2
- ⑥ 慶賀・150年ぶり里帰り 日本経済新聞・朝刊 55.5.7
- ⑥ 夭折の画家・関根正二 「素敵な女性」2-11 55.11
- 宮 次男(第一研究室長)
- ② 絵巻物に見る日本仏教 東洋学術研究19-1 55.4
- ② 文学と絵巻のあいだ 国語と国文学675 55.5
- ② 高僧伝絵巻と縁起絵 朝日百科「世界の美術」113 55.5
- ② 新しい人間像の探究—南北朝の絵画— 「図説日本の古典」11 集英社 55.8
- ② 稚児の絵巻 同上
- ② 法華経の絵と今様の歌 仏教芸術132 55.9
- ② 絵巻と信仰生活 「探訪日本の古寺」13 小学館 55.10
- ② 在米の弘法大師伝絵巻について 「原色日本の美術」27 小学館 55.11
- ② 槻峯寺建立修行縁起について 「新修日本絵巻物全集」別巻1 角川書店 55.11
- ② 鎌倉美術とリアリズム 「日本の古典」10 集英社 55.12
- ② 祖師伝絵巻の流布 同上
- ② 絵巻にみる「往生要集」 同上
- ② 八幡縁起絵巻 「新修日本絵巻物全集」別巻2 角川書店 56.2
- ② 天稚彦草子絵巻 同上
- ② 鼠草紙絵巻 同上
- ④ 仏教説話と絵画 説話文学会(二松学舎大学) 55.6
- ④ 延命寺の極楽地獄図 美術部・情報資料部研究会 55.7

増田 勝彦(第一研究室)

## 調査研究

- ② 製紙に関する古代技法の研究(共) 保存科学20号 56. 3

- ⑤ 文化財修理と科学

昭和55年度文化財修理技術者養成講習会

### 関 千代(第二研究室長)

- ① 近代の肖像画(近代の美術60) 至文堂 55. 9  
③ 美術雑誌の変遷 絵No. 200 55. 10  
③ 前田青邨作品集 鹿島出版会 56. 1  
③ 狩野芳崖の写生帖下 美術研究 316号 56. 3  
③ 中村貞以について「中村貞以展」目録 読売新聞社 56. 3  
③ 中村貞以の芸術 新美術新聞 56. 3  
⑥ 小林古径年譜「小林古径作品集」 朝日新聞社 56. 3

### 三輪 英夫(第二研究室)

- ③ 長崎の洋風画 週刊朝日百科「世界の美術」128 55. 9  
③ 岡田三郎助について 「藤島武二・岡田三郎助展」図録 55. 11  
③ 明治初期洋画家の西欧理解 「Museum Kyushu」第1号 55. 12  
③ 洋風画研究における長崎 「西日本文化」168 56. 1  
④ 百武兼行筆海辺図他について 美術部・情報資料部研究会 56. 3

## 芸能部

### 三隅 治雄(芸能部長)

- ① 大衆芸能資料集成第1巻「祝福芸 I 萬歳」(共著) 三一書房 55. 6  
① 若柳吉三次芸談 芸能発行所 55. 6  
② 舞楽の民俗 雅楽界55号 55. 4  
② 民謡研究の今日と明日 国文学増刊号 55. 6  
② 東京の神楽 文化財の保護(東京都教育委員会)13号 56. 3  
⑤ 伝統芸能と日本人 光市教育委員会 55. 7  
⑤ 日本の民俗芸能と新潟県 新潟県文化財指導者講習会 55. 8  
⑤ 茨城県の民俗芸能 茨城県立博物館 55. 10  
⑤ 日本の民俗芸能と民謡 文化庁文化財指導者講習会 55. 10

主要研究業績

- ⑤ 千葉県の民謡と民俗芸能 千葉県文化財指導者講習会 55. 11
- ⑤ 伊那谷の芸能 飯田創造館 55. 12
- ⑤ 「女」の芸 芸能部公開学術講座 56. 1
- ⑤ 万歳の系譜 九州芸術祭 56. 2
- 佐藤 道子(演劇研究室長)
- ④ 東大寺修二法要形式の特異性(一)悔過作法— 二月堂研究会 55. 7
- ④ 東大寺修二法要形式の特異性(二)祈願作法— 二月堂研究会 55. 10
- ⑤ 二月堂について ダルマ・サンガの会 55. 10
- ⑤ 悔過会について ダルマ・サンガの会 55. 11
- ④ 東大寺修二法要形式の特異性(三)付加作法— 二月堂研究会 55. 12
- ⑥ 佐渡の能楽界興隆の機整う 新潟日報 55. 6
- ⑦ 女方のしぐさ 芸能部公開学術講座 56. 1
- 松本 雅(演劇研究室)
- ③ 総合新訂版「能楽全書」第5巻, 解題・補注 55. 8
- ③ 「翁・御奥能・御表能」項目解説 「国史大辞典」第2巻 55. 7
- 柿木 吾郎(音楽舞踊研究室)
- ④ Regional Folk Song Styles in Japan and Some Parallels in Indonesian Songs. The 4th International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property. 55. 8
- 山本 宏子(音楽舞踊研究室)
- ⑥ 韓国の鐘 季刊邦楽23号 55. 6
- ④ Children's Game Songs in Indonesia. The 4th International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property, 55. 8
- ④ インドネシアのわらべ歌——ジャワのドラナン—— 東洋音楽学会定例研究会 56. 2
- 横道萬里雄(音楽舞踊研究室)
- ⑤ 面装束と舞台の特質 NHK文化センター 55. 4~6
- ⑤ 「熊野」 箏曲の伝統を守る会 55. 9
- ⑤ 謡と囃子のしくみ NHK文化センター 55. 10~12

調査研究

- ① 「砧」 箏曲の伝統を守る会 56. 2
- ② 「観世寿夫著作集」編集 平凡社 55.10~56. 3
- 羽田 昶 (民俗芸能研究室)
- ③ 能・狂言・幸若の〈語り〉 「月刊文化財」 55. 9
- ④ 京観世をたずねて CBSソニーレコード 55.10
- ⑤ 観世鎮之丞の芸第一集 CBSソニーレコード 56. 2
- ⑥ 女方の歴史 芸能部公開学術講座 56. 1
- ⑦ 79年の能界 『演劇年報』 55. 5
- 中村 茂子 (民俗芸能研究室)
- ⑧ 大衆芸能資料集成・第二巻 祝福芸Ⅱ・大神楽(共著) 三一書房 56. 1
- ⑨ 江戸大神楽曲目解説 国立劇場第35回民俗芸能公演 56. 1
- ⑩ 千葉県民謡緊急調査報告書 千葉県教育委員会 56. 3
- 仲井幸二郎 (民俗芸能研究室)
- ⑪ 童唄民俗論一歳事唄篇 国文学論叢新集2 55.10
- ⑫ 民謡を読む 国文学増刊号 55. 6
- ⑬ 口訳民謡集・夏の山唄 みんよう文化 55. 6
- ⑭ 口訳民謡集・おぼば みんよう文化 55. 7
- ⑮ 口訳民謡集・新庄節 みんよう文化 55. 8
- ⑯ 口訳民謡集・シャンシャン馬道中唄 みんよう文化 55. 9
- ⑰ 口訳民謡集・姉こもさ みんよう文化 55.10
- ⑱ 口訳民謡集・日向木挽唄 みんよう文化 55.11
- ⑲ 口訳民謡集・北海舟漕ぎ流し唄 みんよう文化 55.12
- ⑳ 正月と童唄 教室の窓 55.12
- ㉑ 実習民謡曲集・曲目解題(専科) 日本音楽教育センター 55.12
- ㉒ 民謡と民話ほか8篇 読売民謡全集 55.12
- ㉓ 口訳民謡集・といちんさ みんよう文化 56. 1
- ㉔ 口訳民謡集・文字甚句 みんよう文化 56. 2
- ㉕ 口訳民謡集・ホッチョセ みんよう文化 56. 3
- ㉖ 山家鳥虫歌(共同研究) 芸能 55.4~55.8

主要研究業績

- |                 |               |           |
|-----------------|---------------|-----------|
| ⑤ 民謡と新民謡        | 日本青年館         | 55. 4     |
| ⑤ 民謡の輪廓1        | 日本民謡協会指導者講習会  | 55. 5     |
| ⑤ 民謡の輪廓2        | 日本民謡協会指導者講習会  | 55. 7     |
| ⑤ 民謡の常識1        | 日本民謡協会指導者講習会  | 55. 7     |
| ⑤ 民謡の常識2        | 日本民謡協会指導者講習会  | 55. 8     |
| ⑤ 日本民謡の知識(カセット) | 日本民謡協会        | 55. 8     |
| ⑤ 日本民謡への知識      | 古典セミナー例会      | 55. 8     |
| ⑤ 北陸の唄と踊        | 全国民謡民舞講習会(札幌) | 56. 2     |
| ⑤ 山の唄・海の唄       | 全国民謡民舞講習会(府中) | 56. 2     |
| ⑤ 二つの祝い唄        | 全国民謡民舞講習会(大阪) | 56. 3     |
| ⑤ 海の唄・座敷の唄      | 全国民謡民舞講習会(高崎) | 56. 3     |
| ⑥ みんよう対談(連載)    | みんよう文化        | 55.4~55.7 |
| ⑥ 民謡との出会い       | 源流第2号         | 55.10     |
| ⑥ 『日本民謡大観』書評    | 芸能            | 55.11     |
| ⑥ 千葉県民謡緊急調査報告書  | 千葉県教育委員会      | 56. 3     |

保存科学部

江本 義理 (保存科学部長)

- |   |                           |            |
|---|---------------------------|------------|
| ① Deterioration of Japanese Wooden Panel Painting: an Approach to the Study of Malachite Staining "Rokushō-Yake." The 3rd International Symposium of the Conservation and Restoration of Cultural Property. |                           | 55.11      |
| ② 水中遺物の保存に関する研究   | 古文化財に関する保存科学と人文・自然科学年次報告書 | 56. 3      |
| ② 東洋古代ガラスの化学分析(馬淵と共著)東洋古代ガラス  | 国立博物館                     | 56. 3      |
| ③ 古墳の中の空気 —古墳壁画の保存を模索する。  | 自然                        | 35—8 55. 8 |
| ④ 水中遺物の保存   | 特定研究「古文化財」研究会             | 56. 3      |
| ④ 中性子放射化分析による古代ガラスの主成分元素・微量元素の定量<br>(富沢・牧島・下平・富永と協同)  | 古文化財科学研究会講演会              | 55. 5      |
| ④ 古代ガラスの放射化分析(第1報)(富沢・牧島・下平・富永と協同)  |                           |            |

調査研究

- 放射化学討論会 55.10
- ⑤ 文化財の材質と劣化 文化財虫蝕害保存研究会 (輔文化財虫害研究所) 55. 9
- ⑤ 保存科学概論
- 昭和55年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修会 奈良国立文化財研究所 55.10

門倉 武夫 (主任研究官)

- ② 燻蒸後の残留ガスの安全廃棄処理について
- 考古学・美術史の自然科学的研究 55.11
- ④ 文化財周辺の粉じんについて 第2回古文化財講演会大会 55. 5

石川 陸郎 (主任研究官)

- ② 博物館・美術館の展示照明光源 博物館研究Vol.15 No.6 55. 6
- ② 古彫刻の構造検出方法に関する研究
- 古文化財に関する保存科学と人文・自然科学(特定研究年次報告) 56. 3
- ④ 採光法からみた浄土寺浄土堂の堂内空間構成の特徴
- 第2回古文化財講演会大会 55. 5
- ⑥ 海外事情調査に参加して —美術館における展示環境—
- 日本博物館協会海外事情調査報告書 56. 3

馬淵 久夫 (化学研究室長)

- ② 鉛同位体比測定による日本及び中国出土考古遺物の産地の研究(山崎らと共著)
- 文部省科学研究費特定研究「古文化財」総括報告書 55. 3
- ② X線断層撮影による仏像の調査(三浦・本間と共著)
- 計測自動制御学会論文集16巻2号 55. 4
- ④ 銅鏡の鉛同位体比 日本地球化学会年会(鹿児島大学) 55.10
- ③ 青銅器の謎と同位体化学 自然36巻1号 56. 1
- ④ 鉛同位体比の考古学への応用 質量分析学会同位体比部会(箱根) 56. 3
- ④ 鉛同位体比から見た青銅鏡原料の産地 特定研究「古文化財」研究会
- ② 竹島御家老屋敷古墳出土鏡片の鉛同位体比による同定
- MUSEUM357号 55.12

見城 敏子 (物理研究室長)

- ② 湿度調節剤に関する研究(第1報)(省エネルギーの為の湿度調節剤について)

主要研究業績

保存科学20号 56.

- ② 文化財の長期保存に関する研究 (2)文化財顔料への酸素濃度の影響

古文化財之科学25号 56.

三浦 定俊 (物理研究室)

- ② X線断層撮影による仏像の調査 計測自動制御学会論文集16巻2号 55. 4

- ② 古代ガラス研究への試考(本間・長瀬と共著)

考古学雑誌66巻3号 55. 12

- ② 壁画の材料・技法と地下水の上昇に関する研究 保存科学20号 56. 3

- ③ ラスコ洞窟壁画保存の現状—高松塚古墳壁画の保存にちなんで—

月刊文化財 55. 6

- ③ X線断層撮影による仏像の調査 OHM 55. 8

- ④ X線コンピュータ断層撮影の文化財への応用

第2回古文化財講演会大会 55. 5

- ④ システム論的にみた美術品展示ケースの設計(I)

第19回SICE学術講演会 55. 8

- ④ ガラス玉の屈折率測定 第2回RESESEシンポジウム 55. 10

- ④ 科学的調査法による日本古代中世絵画の実証的研究(秋山・柳沢らと共同)

特定研究「古文化財」昭和55年度年次報告書 56. 3

- ⑤ 文化財保存における湿度計測 計測自動制御学会第45回温度計測部会 55. 9

新井 英夫 (生物研究室長)

- ① 生物による劣化とその防除—集落遺構の保存—千葉市加曾利貝塚博物館 56. 3

- ② 文化財の長期保存に関する研究 (第1報)

(1)同時2軸延伸ポリビニルアルコールフィルムの文化財生物劣化防止への応用  
(森と共同), 古文化財の科学25号 55. 12

- ② 博物館等の燻蒸設備について(その1), (森と共同)

文化財の虫菌害1号 56. 1

- ② コンクリート壁体のガス透過性について(その1), (森と共同)

保存科学20号 56. 3

- ② 軸装の昆虫による被害について(森と共同) 保存科学20号 56. 3

調査研究

- ② 新設燻蒸庫について(森と共同) 保存科学20号 56. 3
- ④ 文化財の移動燻蒸庫について(森と共同), 第2回古文化財講演会大会 55. 5
- ④ 開館前後の新設博物館における虫菌害(森と共同),  
第2回古文化財講演会大会 55. 5
- ⑤ 建物の燻蒸と防カビ対策, 建物の防カビ対策講習会, 衛生技術会 55. 6
- ⑤ 木質文化財の微生物被害とその対策,  
第2回文化財虫菌害保存研修会講演 (財)文化財虫害研究所 55. 8
- ⑤ 書籍・古文書等の微生物被害とその対策,  
第2回研修会講演 (財)文化財虫害研究所 55. 10
- ⑤ 文化財虫菌害防除作業主任者の研修と能力認定の第2回講習会講演  
(財)文化財虫害研究所 56. 1

森 八郎

- ① シロアリ詳説(共著) (財)日本しろあり対策協会 55. 9
- ① シロアリ防除ダイジェスト(改訂版)(共著) 同上 56. 1
- ② わが国に生息する“住まいの害虫”リスト(統)[II] 各論 3. 膜翅目 4. 鱗翅目 5. 網翅目 6. 総尾目 7. 嚙虫目 8. 双翅目 9. 直翅目  
しろあり41号 55. 4
- ② シロアリと人間生活 泉28 55. 5
- ② 文化財の長期保存に関する研究(第1報)  
(1)同時2軸延伸ポリビニルアルコールフィルムの文化財生物劣化防止への応用  
(新井と共同) 古文化財の科学25 55. 12
- ② 殺虫剤としての有機錫化合物 ベストコントロール33 56. 1
- ② 文化財の燻蒸 文化財の虫菌害1 56. 1
- ② 残効性ピレスロイド剤の Screening tests, ベルメトリンのイエシロアリに対する防蟻効力試験—薬剤処理杭試験体の2年4カ月経過時の成績  
保存科学20 56. 3
- ② コンクリート壁体のガス透過性(その1)(新井と共同) 同上 56. 3
- ② 軸装の昆虫による被害について(新井と共同) 同上 56. 3
- ② 新設燻蒸庫について(新井と共同) 同上 56. 3

主要研究業績

- ④ 文化財の移動燻蒸車について(新井と共同) 第2回古文化財講演会大会 55. 5
- ④ 開館前後の新設博物館における虫菌害(新井と共同) 同上 55. 5
- ⑤ わが国におけるシロアリの種類, 分布, 生態, 被害調査並びに防除  
 (財)日本しろあり対策協会関東支部講演 55. 8
- ⑤ 文化財の虫害と防除, 第2回文化財虫菌害保存研修会講演  
 (財)文化財虫害研究所 55. 8
- ⑤ 書籍・古文書等を加害する昆虫とその被害対策第2回研修会講演 同上 55. 10
- ⑤ 害虫・かび保存修復研修会 文化庁美術工芸課 55. 10
- ⑤ 文化財虫菌害防除作業主任者の研修と能力認定の第2回講習会講演  
 (財)文化財虫害研究所 56. 1
- ⑤ 家屋内一般害虫とその防除, 第16回ねずみ衛生害虫駆除技術研修会講演  
 (財)日本環境衛生センター 56. 3
- ⑥ シロアリの被害と防除 アニマ91 55. 9
- ⑥ 家屋害虫最近の状況(講演要旨) 家屋害虫7・8 55. 12
- ⑥ わが国におけるシロアリの種類, 分布, 生態, 被害調査並びに防除(テキスト)  
 (財)日本しろあり対策協会関東支部 55. 8
- ⑥ 家屋内一般害虫とその防除(テキスト) (財)日本環境衛生センター 56. 2

修復技術部

田辺三郎助(修復技術部長)

- ② 重源と運慶・快慶 ミュージアム350号 55. 5
- ② 江戸時代再興の東大寺大仏脇侍像について 仏教芸術131号 55. 7
- ② 称名寺本尊・弥勒菩薩像をめぐる諸問題 三浦古文化28号 55. 11
- ② 材質・技法からみた天平彫刻 「日本古寺美術全集」4 55. 11
- ③ 木造舞楽面(住吉大社)他 「解説版新指定重要文化財」3 56. 3
- ③ 木造菩薩坐像(クリーブランド美術館)他 「在外日本の至宝」8 55. 7
- ④ 彫刻における材質・技法・様式の関係 文化庁重要文化資料選定協議会 55. 7
- ④ 仮面と仏教 仏教美術研究上野記念財団助成研究会「仮面と宗教」 55. 11
- ⑤ 海外における博物館 文化庁指定文化財展示取扱講習会 55. 7

調査研究

- ⑤ 欧米の博物館・美術館にある極東古美術品とその保存  
古文化財科学研究会 55. 9
- ⑤ 文化財修理と科学  
文化庁修理技術者講習会 55.10
- 中里 寿克（第一修復技術研究室長）
- ① 上総山王山古墳発掘調査報告書(共) 55. 3
- ① 八幡山古墳石室復原報告書(共) 55. 3
- ② 春日大社御神宝蒔絵箆 ミュージアム 352号 55. 7
- ⑤ 出土中世漆器の諸問題 第10回文化財修復研究協議会 55.10
- 西浦 忠輝（第一修復技術研究室）
- ② 古建築修復用人工木材の特性—特にアラルダイトXN1023について—  
考古学・美術史の自然科学的研究 55.11
- ② 古建築構造材の力学的研究—継手の強度について—(杉山と共同)  
考古学・美術史の自然科学的研究 55.11
- ② 丹塗り塗装の耐久性(西川・樋口・中里・茂木と共同)  
考古学・美術史の自然科学的研究 55.11
- ② 瓦の保存・修復に関する研究〔I〕再使用を目的とした古瓦の強化処置  
保存科学19号 56. 3
- ② 瓦の保存・修復に関する研究〔II〕重文・定光寺観音堂の古瓦の保存・修復処  
置  
保存科学19号 56. 3
- ③ シラン含浸による劣化瓦の強化処置 定光寺観音堂修理工事報告書 56. 3
- ④ 寸法安定化処理材の接着性能(堀岡・皆川・高瀬・谷崎と共同)  
接着研究発表会 55. 6
- ⑤ 材料(特殊材) 文化財建造物修理主任技術者講習会 55. 9
- 鶴田 武良（第二修復技術研究室長）
- ② 金邨について—来船画人研究— 美術研究314 55. 9
- ② 伊孚九と李用雲—来船画人研究— 美術研究315 55.12
- ② 費漢源と費晴湖—来船画人研究三— 国華1036 55. 7
- ③ 名古屋市鶴舞中央図書館蔵内田蘭渚宛十時梅厓書簡 上 国華1039 56. 1
- ③ ” ” 下 国華1040 56. 2

主要研究業績

- ③ 書画の保存(編訳) 季刊水墨画14 55. 10
- ③ 中国出土飽水漆器の保護(訳) 保存科学20 56. 3
- 樋口 清治(第三修復技術研究室長)
- ② 合成樹脂による古建築構造材修復の最近の実例 保存科学19号 56. 3
- ② 集落遺構の保存(合成樹脂による保存処置) 千葉市加曽利貝塚博物館 56. 3
- ④ 建造物修理と合成樹脂—その歴史と展望—  
昭和55年度重要文化資料選定協議会 55. 7
- ⑤ 美術工芸品修理に使う合成樹脂  
昭和55年度美術工芸品修理技術者講習会 55. 11
- ⑤ 昭和55年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(遺物保存科学)  
—保存材料の沿革— 55. 12
- ④ 合成樹脂による石造文化財修復の沿革と問題点  
文部省科研費特定研究「古文化財」サロン「石造文化財の保存」
- 青木 繁夫(第三修復技術研究室)
- ② アル・タール出土染織皮革遺物の研究 ラーフィダーン第1巻 55. 3
- ② 集石炉の取り上げ保存処置 御伊勢前遺跡発掘調査報告書 56. 3

情報資料部

久野 健(情報資料部長)

- ② 対馬の朝鮮仏 朝鮮文化46 55. 6
- ② 山口菩提寺山の磨崖仏 史迹と美術508 55. 9
- ② 飛鳥仏の誕生 美術研究115 55. 12
- ② 古代日本の仏たち 古代美術館13 56. 1
- ② 生きている新羅仏 朝鮮文化49 56. 3
- ③ 平安時代前期の美術「世界の美術」108 週刊朝日百科 55. 4
- ③ 彫刻「世界の美術」108 週刊朝日百科 55. 4
- ③ 黒石寺薬師如来像の胎内銘 地誌と歴史24 55. 5
- ③ 平安の仏たち「探訪日本の古寺」12 小学館 55. 6
- ② 知られざる古代仏十選 日本経済新聞 55. 6

調査研究

- ③ 運慶の銘札「国史大辞典」2 月報 吉川弘文館 55. 7
- ③ 飛鳥, 白鳳の仏「探訪日本の古寺」2 小学館 55. 12
- ⑤ 飛鳥仏の誕生 古代学協会講演会 於学会館 55. 4
- ⑤ 止利仏師と飛鳥仏 京都国立博物館夏期講習会 55. 8
- ⑤ 興福寺の仏像 真珠の小箱 大阪毎日テレビ 55. 10
- ⑤ 東北古代仏の魅力 小学館文化講演会 於仙台 55. 10
- ⑤ 日本の仏像と東アジア 大阪東アジアを考える会 於大阪 56. 2

江上 綏(主任研究官)

- ② 王朝の文様と意匠「世界の美術」110(平安時代後期の美術Ⅱ) 週刊朝日百科 55. 5
- ② 隋唐以前の中国における西方系文様 日本美術工芸510 55. 6
- ② 新出の金剛証寺藏紺紙金字莊嚴経 美術研究314 55. 9
- ② 庭園及び工芸・絵画の水のモチーフ「日本の庭園」1 講談社 55. 9
- ⑥ ポストン美術館の日本・中国絵画(翻訳)「岡倉天心全集」2 平凡社 55. 6
- ⑥ 中国日本部の新収品(翻訳) 同上
- ⑥ 中国及び日本の鏡(翻訳) 同上
- ⑥ 中国の玉(翻訳) 同上
- ⑥ 中国・日本新収品展(翻訳) 同上

上野 アキ(文献資料研究室長)

- ② 高麗仏画の種々相, 及び解説24点 「高麗仏画」朝日新聞社 56. 2
- ③ 敦煌・阿弥陀浄土図, キジル・菩薩と楽天との交歓図 「世界の美術」8 ぎょうせい 56. 2
- ⑤ トゥルファン遺蹟の現状 古文化財の科学研究会 55. 4
- ⑤ 講座シルクロードの美術 東京女子大学同窓会 55. 5~6
- ⑤ ベゼクリク石窟の壁画 美術部・情報資料部公開学術講座 55. 12
- ⑥ 書評・アリバウム著, 加藤九祚訳「古代サマルカンドの壁画」 月刊シルクロード 6—9 55. 12

米倉 迪夫(文献資料研究室)

- ② 肖像画「世界の美術」113(鎌倉時代の美術Ⅱ) 週刊朝日百科 55. 5

主要研究業績

- ② ポストン美術館本「うたたね草紙」について「新修日本絵巻物全集」別巻2・  
在外編 角川書店 56. 2
- ② 西導寺蔵掛幅本「法然上人伝絵」について 美術研究316 56. 3
- ③ 目無経, 時代不同歌合絵断簡(作品解説)「東京芸術大学蔵品図録」絵画 I  
55. 4
- ③ ポストン本・フリア本うたたね草紙(作品解説)「在外日本の至宝」2  
毎日新聞社 55. 5
- ③ 愚直師侃図 国華1040 56. 2
- ④ 西導寺本「法然上人伝絵」 美術部・情報資料部研究会 55. 7
- 関口 正之(写真資料研究室長)
- ② 絵画「世界の美術」108(平安時代前期の美術) 週刊朝日百科 55. 4
- ② 仏教絵画「世界の美術」110(平安時代後期の美術Ⅱ) 週刊朝日百科 55. 5
- ② 来迎図の世界「探訪日本の古寺」7 小学館 55. 8
- ③ 仏教絵画作品解説「世界の美術」109(平安時代後期の美術Ⅰ)  
週刊朝日百科 55. 4
- ③ 丸岡家蔵鳥枢瑟摩明王図 国華1040 56. 2
- ③ 仏教絵画作品解説「神奈川県文化財図鑑・絵画篇」 神奈川県教育委員会 56. 2
- 鈴木 廣之(写真資料研究室)
- ② 押絵貼り屏風形式の架鷹図について「日本屏風絵集成」12 講談社 55. 7
- ② 宗達と古典の世界「世界の美術」122 週刊朝日百科 55. 7
- ④ 園城寺旧子院日光院障壁画について 文化庁重要文化資料選定協議会 55. 7

## 8 その他の研究活動

### ほかの機関における講義など

(氏 名)	(機 関 名)	(担当科目)
伊 藤 延 男	明治大学大学院非常勤講師	文化財保存特論
川 上 涇	京都大学文学部非常勤講師	美学美術史学
宮 次 男	東北大学文学部非常勤講師	東洋・日本美術史
田 村 悦 子	青山学院大学非常勤講師	美術

調査研究

猪川和子	帝京大学非常勤講師	日本美術史
田実栄子	お茶の水女子大学大学院非常勤講師	服飾史特論Ⅱ
田実栄子	日本女子大学大学院非常勤講師	服装文化史特論
陰里鉄郎	東京芸術大学非常勤講師	日本美術史
三輪英夫	池坊お茶の水学院非常勤講師	華道関連講義(美術)
三隅治雄	成城大学大学院非常勤講師	民間芸能論
中村茂子	実践女子大学非常勤講師	芸能文化史
江本義理	東京芸術大学美術学部非常勤講師	保存科学特論
馬洩久夫	東京大学工学部非常勤講師	放射化学
馬洩久夫	東京工業大学理学部非常勤講師	放射化学
久野健	東京大学文学部非常勤講師	美術史学
米倉迪夫	成蹊大学非常勤講師	美術
上野アキ	武蔵野美術大学非常勤講師	文明論
関口正之	武蔵野美術大学非常勤講師	日本東洋美術各論
江上綾	埼玉大学教養学部非常勤講師	日本の芸術

## Ⅳ 事 業

### 1 出 版

#### (1) 美術研究

当所美術部・情報資料部の調査研究の成果を公表するための機関誌であって、主として所属研究員の執筆にかかる論文・研究資料・図版解説・美術関係文献の校刊等を掲載し、所外研究者の寄稿を受けることもある。A4版、各号本文40頁、原色図版1、単色図版8で、昭和54年度刊行分は、次のとおりである。

#### 美術研究 314号

##### <論 説>

- 新出の金剛証寺藏紺紙金字莊嚴經  
金那について  
——来舶画人研究——
- 江上 綏  
鶴田 武良

#### 美術研究 315号

##### <論 説>

- 飛鳥仏の誕生  
伊孚九と李用雲  
——来舶画人研究——
- 久野 健  
鶴田 武良

##### <図版解説>

- 関根正二筆 死を思ふ日
- 陰里 鉄郎

#### 美術研究 316号

##### <論 説>

- 西導寺藏掛幅本「法然上人伝絵」について  
紀州東照宮の伝徳川家康所用小袖四領  
——紀州東照宮染織品調査報告二——
- 米倉 迪夫  
田実 栄子

##### <研究資料>

事 業

狩野芳崖の写生帳 下

関 千代

(2) 日本美術年鑑

昭和11年10月創刊以来、毎年1月から12月までの美術界の活動状況を記録するもので、美術界年史、展覧会記録、文献目録、物故者略歴等を収録し、編集は専ら第二研究室があたり、美術部、情報資料部研究員の調査執筆による。

日本美術年鑑 昭和54年版 昭55. 3. 31発行

(3) 保存科学

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文報告書等である。本年度は第20号を発行した。

保存科学第20号 昭和56年3月発行

- (1) 湿度調節剤に関する研究(第1報) ——省エネルギーの為の湿度調節剤について 見城 敏子
- (2) 壁画の材料・技法と地下水の上昇に関する研究 三浦 定俊
- (3) 残効性ピレスロイド剤の Screening test ベルメトリンのイエシロアリに対する防蟻効力試験 ——薬剤処理杭試験体の2年4カ月経過時の成績—— 森 八郎
- (4) コンクリート壁体のガス透過性(その1) 新井英夫・森 八郎
- (5) 軸装の昆虫による被害について 森 八郎・新井英夫
- (6) 新設燻蒸庫について 新井英夫・森 八郎
- (7) 製紙に関する古代技術の研究 大川昭典・増田勝彦
- (8) 瓦の保存・修復に関する研究[I] ——再使用を目的とした古瓦の強化処置—— 西浦 忠輝
- (9) 瓦の保存・修復に関する研究[II] ——重文・定光寺観音堂の古瓦の保存・修復処置—— 西浦 忠輝
- (10) 合成樹脂による古建築構造材修復の最近の実例 樋口 清治
- (11) 中国出土匏水漆器の保護 胡 継 高・鶴田武良訳
- (12) 昭和55年度修復処置概報 修復技術部

## 2 黒田清輝巡回展

黒田清輝の遺作の多くを所蔵している本研究所は、黒田清輝の功績を記念し併せて地方文化の振興に資するために、昭和52年度からの事業として黒田清輝巡回展を年1回地方において開催してきた。

本年度は佐賀市において開催した。

会 期 昭和55年5月17日～昭和55年6月8日

会 場 佐賀県立博物館

主 催 東京国立文化財研究所・山形県・佐賀県教育委員会・佐賀県立博物館

開催日数 23日間

入場者数 13,656人

陳列点数 油彩56点, デッサン50点, 写生帖17点, 書簡3通, 日記5冊, 写真パネル2, 黒田清輝胸像1点, 遺品2点, 記録写真16枚

目 録 A4判変型104頁, 原色版6頁, 単色版79頁。

## 3 公開学術講座

### 美術部・情報資料部

日 時 昭和55年12月6日(土) 13:30～16:30

会 場 日本経済新聞社小ホール(9階)

講 演 (1) 観音彫像 美術部主任研究官 猪川 和子

(2) ベゼクリク石窟の壁画 情報資料部文献資料研究室長

上野 アキ

### 芸 能 部

日 時 昭和56年1月16日(木) 18:00～20:35

会 場 虎ノ門ホール

テ ー マ 歌舞伎 女方の技法

講 演 (1) 女方の歴史 民俗芸能研究室長 羽田 昶

(2) 女方のしぐさ 演劇研究室長 佐藤 道子

## 事 業

(スライド出演)

尾上 菊蔵

(3) 「女」の芸

芸能部長 三隅 治雄

実演と話

坂東玉三郎・東 恵美子

## 4 会 議

保存科学部・修復技術部

### 第10回 文化財保存修復研究協議会

日 時 昭和55年10月22日 10:00~17:00

会 場 本研究所別館会議室

テ ー マ 「漆芸品の保存と修復Ⅱ」

前年度に引続き同じテーマをかかげて多くの問題をかかえる漆について、更に深い検討を行った。今年度は芸大教授西村公朝氏に実演をまじえた奈良時代乾漆技法について特別講演を行い、大きな収穫があった。本年も例年のとおり北村文化財鑑査官以下、記念物課、美術工芸課、建造物課、無形文化民俗文化課の担当調査官、東京国立博物館工芸課、考古課、東京芸術大学美術学部、更に関係機関として奈良国立文化財研究所、元興寺文化財研究所、美術院国宝修理所、文化財建造物保存技術協会から出席を得た。

(発表課題、発表者)

1. 実際の漆塗装と温度との関係 保存科学部物理研究室長 見城 敏子
2. 出土中世漆器の諸問題 修復技術部第一修復技術研究室長 中里 寿克
3. 高松塚古墳出土漆棺の化学処置  
奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター 主任研究官 沢田 正昭
4. 建造物修理施工漆塗装に対する今後における問題点  
勸日光社寺文化財保存会技師 吉原 昭夫
5. 特別講演「乾漆像の復元模造について」  
東京芸術大学美術学部教授 西村 公朝

### 第9回 文化財保存科学懇談会

日 時 昭和56年2月26日(木)

会 場 本研究所別館会議室

文化財の保存と修復に関し、保存科学部、修復技術部の調査研究が円滑に推進され、文化財保護事業に効果をもたらすことを目的として、文化庁文化財保護部文化財鑑査官、管理課、記念物課、建造物課、美術工芸課の課長及び担当技官の出席を得て、本年度の両部の特別研究、受託研究、一般研究の報告を行い、昭和56年度の両部の調査計画を説明した。

## 芸 能 部

### 文化財の保存及び修復に関する国際研究集会

昭和52年に始まったこの集会も今年で第4回を迎えた。第3回までは保存科学部と修復技術部が担当してきたが、今回ははじめて芸能部が担当し、アジアにおける伝統芸能の保存・伝承の現状と、欧米における同様の状況を比較研究しつつ、芸能伝承の本質の問題を相互に把握すべく「伝統芸能の保存と発展」のテーマをかかげて、4日間にわたる研究集会を企画した。

講演者は組織委員会により選定され、海外7名、国内11名であった。講演は下記のような5セッションに分けて行われた。日程は次のとおりである。

名 称 第4回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会—伝統芸能の保存と発展—

(The Fourth International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property—Preservation and Development of The Traditional Performing Arts—

日 時 昭和55年8月6日～9日

会 場 国立社会教育研修所

第1日

(特別講演)

The Complexity of the Cultural Process (文化過程の複雑性)

ウェスリアン大学 D・P・マカレスター

第2日

[セッションI 日本の民俗芸能]

1. Method of Learning Folk Music and their Influence on the Music itself

事 業

—The Case of Etchū Owara bushi. (民俗音楽学習法の音楽への影響—越中お  
わら節の場合) 京都教育大学 高見富美子

2. Japanese Folk Song Preservation Societies: Their History and Nature.  
(日本民謡の伝承会—保存会) ミシガン大学 D・W・ヒューズ

3. An Ancient Style Song in Ennen of Obasama. (小迫の延年における古様  
式歌謡) 宮城教育大学 森田 稔

4. The Preservation and Development of the Performing Art of Tsugaru.  
(津軽地方の芸能の保存と発展) 弘前大学 笹森 建英

[セッションII 太平洋周辺の音楽]

1. Interrelationships between Musical and Social Change in Japanese and  
Australian Aboriginal Culture. (日本及びオーストラリアの土着文化における  
音楽と社会の変化の間の相互関係) シドニー大学 A・マレット

2. Recent Actual Situation of Preservation of Traditional Music and Songs  
among Ordinary People and Society of Yogyakarta. (ジョクジャカルタの庶  
民社会における伝統音楽及び歌曲保存の最近の現状)

インドネシア音楽大学 P・スハルジョ

3. Children's Game Songs in Indonesia. (インドネシアの子供の遊び歌)  
東京国立文化財研究所 山本 宏子

4. Regional Folk Song Styles in Japan and Some Parallels in Indonesian  
Songs. (日本民謡に見られる地域的様式とインドネシアの歌との間の類似性)

東京国立文化財研究所 柿木 吾郎

第3日

[セッションIII 保存と発展]

1. The Present Condition of The Preservation and Study of Ainu Music.  
(アイヌ音楽の保存と研究の現状) 北海道教育大学 谷本 一之

2. Conservation and Composition: Some Thoughts on the Meaning of  
Ethnomusicology. (保存と作曲—民族音楽保存の意味についての考察)

G・W・ハワード

3. Traditional Elements in the Composition of Miyagi Michio. (宮城道雄の

国際・国内交流

作品に見られる伝統的要素)

武蔵野音楽大学 上参郷祐康

4. Another Way of Preserving and Developing the Traditional Performing Arts. (伝統芸能を保存・発展させるもう一つの方法)

国立音楽大学 柘植 元一

5. A Preservation and Development of Traditional Performing Arts in The Philippines. (フィリピンにおける伝統芸能の保存と発展)

フィリピン大学 S・J・マセダ

[セッションIV 日本の芸術音楽と楽器]

1. Structure and Acoustical Properties of Chikuzen-Biwa. (筑前琵琶の構造及び音響特性)

九州芸術工科大学 安藤 由典

2. The Tradition of Gidayū-Bushi—A Study of Comparative Analysis of Okuri in Ehon-Taikōki 10 Danme, Amagasaki-no-Dan. (義太夫節の伝承—絵本太功記十段目尼ヶ崎の段より<オクリ>の比較分析)

宮崎大学 垣内 幸夫

3. Transmission of Gagaku—Ways of Training The Gagaku Musicians. (雅楽の伝承—楽人の訓練法)

桐朋音楽大学 増本喜久子

4. Zeami on Johakyū Theory—A Japanese Approach of Audience Experience. (序破急理論における世阿弥—聴衆の経験に関する日本のアプローチ)

トロント大学 F・ホッフ

5. Urban Music in Japan in The Late Seventeenth Century: An Approach from Musical Philology. (17世紀後半の日本の市民音楽—音楽文献学からの試み)

独協大学 平野 健次

第4日

[セッションV 総討議]

<出席者>

文化庁文化財保護部長・文化財鑑査官他文化財保護関係官・東京国立文化財研究所関係者、その他芸能研究者等約100名。

## 事業

### 5 国際・国内交流

#### 美術部

美術部出版物の諸外国研究機関・博物館・図書館等との交換，外国研究者との交流も活発に行われた。

川上溼美術部長は台北・中央研究院主催の国際漢学会議に出席し，研究発表を行い，司会を担当し，故宮博物院所蔵絵画を調査した(55.8.13～8.26)。また米国クリブランド美術館主催の中国画国際研究集会に出席し，宋代山水画の部会でパネリストを務め，米国各地美術館所蔵の中国画を調査した(56.3.21～4.4)。

#### 情報資料部

外国の美術史研究者で，当部の資料を利用して研究を行い，又研究上の意見を交換するなど，今年度も多数の来訪者があった。

久野健情報資料部長は，韓国に出張し，慶州南山の石仏及び扶余益山の石仏等の調査を行った(55.3.28～4.2)。

久野健情報資料部長，江上綏主任研究官は及び猪川和子主任研究官(美術部)インドネシア共和国に出張し，ボロブドールをはじめとする仏教遺跡及び関連遺跡並びに中央博物館において彫刻資料，文様資料の調査を行った(55.5.21～5.27)。

上野アキ文献資料研究室長，関口正之写真資料研究室長，江上綏主任研究官及び柳沢孝主任研究官(美術部)は，敦煌石窟調査のため中華人民共和国に出張し，5日間敦煌壁画の調査研究に当った。帰途蘭州で炳靈寺石窟の調査を行ったほか，上海，蘭州，酒泉，敦煌，蘇州の各地で博物館を見学した(55.9.2～9.16)。

久野健情報資料部長，米倉迪夫研究員及び猪川和子主任研究官(美術部)は，中華人民共和国に出張し，敦煌莫高窟・炳靈寺石窟等において中国古代美術の調査を行った(55.10.24～11.6)。

## 海外研究者の来訪

国名	所 属	氏 名
英 国	古代記念物研究所	B. ナイト氏
中 華 民 国	国立台湾大学中文系教授	林 文月氏
インドネシア	教育文化省文化総局長	H. スバディオ氏
アメリカ合衆国	メトロポリタン美術館	B. O. ロバーツ女史
アメリカ合衆国	サウスキャロライナ州国際研究団一行	J. B. リーウェル氏 他12名
スリランカ	スリランカ大学教授	A. アリヤシンゲハ氏
イタリヤ	フォレンツェ修復研究所	U. バルディーニ氏
オランダ	科学医学博物館	エリー・デッカー女史
パキスタン	シンド州立博物館長	Z. カズミ氏
韓 国	文化財研究所	張 慶浩氏
”	”	安 喜均氏
イタリヤ	ベニス歴史美術品管理局	A. ミキエレット氏
中華人民共和国	北京市歴史学会理事	干 杰 氏
”	” 文物商店顧問	刘 珂理氏
”	中山国王墓文物展覽代表团	団長 孙 秩青氏他3名
中 華 民 国	台南市政府民政局次長	劉 阿蘇氏
アメリカ合衆国	メトロポリタン美術館	S. ワイントラウブ氏

## 招へい研究員

昭和53年度より招へい研究員の制度が設けられ国外2名、国内1名の研究員に委嘱され、下記のように共同研究が行われた。

- 1) アラン・マレット博士(シドニー大学・音楽学部講師)  
共同研究課題 鎌倉・室町期の雅楽原典資料の研究  
研究代表者 芸能部音楽舞踊研究室長 柿木吾郎  
委嘱期間 昭和55年7月23日～9月12日
- 2) グレグ・ハワード(ダーリン・ダウン大学高等教育研究所音楽科講師)  
共同研究課題 尺八音楽の伝承と現状について  
研究代表者 芸能部音楽舞踊研究室長 柿木吾郎  
委嘱期間 昭和55年8月1日～9月20日
- 3) 光谷 拓実(奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部、保存工学研

事 業

研究室 (研究員)

共同研究課題 年輪・年代測定法の共同開発及び樹種同定の共同研究

研究代表者 保存科学部長 江本 義理  
修復技術部長 田辺三郎助

委嘱期間 昭和56年1月23日～2月21日

職員の海外出張及び研修旅行

①渡航先 ②目的 ③期間 ④旅費の出途

中里 寿克

- ① 中華人民共和国
- ② 古代から近世にわたる工芸品の調査
- ③ 55. 5. 6～55. 5. 22
- ④ 自費

久野 健, 猪川和子, 江上 綾

- ① インドネシア共和国
- ② ボロブドールをはじめインドネシアの仏蹟調査
- ③ 55. 5. 21～55. 5. 27
- ④ 自費

川上 涇

- ① 台湾
- ② 国際漢学会議参加
- ③ 55. 8. 11～55. 8. 25
- ④ 中央研究院(台湾)

柳沢 孝, 上野アキ, 関口正之, 江上 綾

- ① 中華人民共和国
- ② 敦煌美術の調査研究
- ③ 55. 9. 2～55. 9. 16
- ④ 自費

伊藤 延男

- ① ウィーン(オーストリア)
- ② I I C第8回国際会議出席
- ③ 55. 9. 5～55. 9. 15
- ④ 文部省科学振興費, 在外研究員旅費

伊藤 延男

- ① ユーゴスラビア国
- ② 第21回ユネスコ総会出席
- ③ 55. 10. 6～(55. 10. 17) 55. 10. 19
- ④ 文部省

石川 陸郎

- ① アメリカ合衆国・カナダ
- ② 博物館の展示・照明調査
- ③ 55. 10. 23～55. 11. 7
- ④ 自 費, 日博協補助金

久野 健, 猪川和子, 米倉迪夫

- ① 中華人民共和国
- ② 中国古代美術の調査
- ③ 55. 10. 24～55. 11. 6
- ④ 自 費

田辺三郎助

- ① イタリア・フランス
- ② ヴェニス東洋美術館収蔵品修復プロジェクト, 基礎調査及びランスのサン・レミ博物館収蔵, 日本美術品の実情調査
- ③ 55. 11. 14～55. 12. 14
- ④ 国際交流基金

陰里 鉄郎

- ① アメリカ合衆国・ブラジル・フランス
- ② 日系及び在留日本人画家の調査

事 業

③ 56. 2. 11～56. 2. 15

④ 三重県

川上 涇

① アメリカ合衆国

② 中国画国際研究集会参加及び米国博物館所蔵中国画調査

③ 56. 3. 21～56. 4. 4

④ クリーブランド美術館(アメリカ合衆国)

## V 研究施設・設備

### 1 蔵 書

#### 美術部・情報資料部

日本・東洋古美術，日本近代・現代美術，西洋美術の全般にわたる研究書を中心に，関連図書，各種叢書，辞書類など和漢書(31,866)，洋書(3,807)計35,673冊のほか，各都道府県市町村教育委員会編集の文化財関係報告書，美術関係雑誌，紀要類，売立目録，展覧会目録などを所蔵し，部内外及び研究所外の研究者の利用に供している。

#### 芸 能 部

雅楽・能・歌舞伎・文楽・邦楽・邦舞・民俗芸能・寄席芸その他わが国の伝統芸能の研究に必要な図書5,408冊を所蔵する。演芸画報・歌舞伎新報・歌舞伎(第1次)・テアトロ(第1次)・新劇・上方・民俗芸術・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説等の雑誌，丸本・謡本等の台本も収集している。

#### 保存科学部・修復技術部

古来の伝統的生産及び工芸技術書，技術史，又は数少ないそれらの科学的究明を試みたもの，修理工事報告書，及び化学・物理・生物学部門の保存科学に関連ある和洋書を合わせて2,236冊を所蔵している。

昭和53・54・55年度の新蔵書数は次のとおりである。

区 分	美 術 部 情 報 資 料 部		芸 能 部		保 存 科 学 部 修 復 技 術 部		計
	和漢書	洋書	和漢書	洋書	和漢書	洋書	
昭和53年度	982冊	79冊	346冊	5冊	96冊	36冊	1,544冊
昭和54年度	809冊	44冊	505冊	6冊	53冊	36冊	1,453冊
昭和55年度	3483冊	53冊	844冊	18冊	19冊	20冊	4,437冊

研究施設・設備

2 当所出版物

美術部

(1) 美術研究

昭和7年より同55年3月までに通算313号を刊行した。

(2) 日本美術年鑑

昭和11年創刊。毎年1冊(ただし昭和19~21, 同22~26, 同49~50年は各合冊)出版し, 昭和55年3月までに36冊を刊行した。

(3) その他の出版物

支那古版図録	(美術研究資料第1輯)	昭和7
吉備大臣入唐絵詞	(美術研究資料第2輯)	昭和9
徽宗摹張萱搗練圖	(美術研究資料第3輯)	昭和10
鳳凰堂雲中供養仏	(美術研究資料第4輯)	昭和11
桃山時代金碧障壁画	(美術研究資料第5輯)	昭和12
富貴寺壁画	(美術研究資料第6輯)	昭和13
印度及南部アジア美術資料	(美術研究資料第7輯)	昭和14
光悦色紙帖	(美術研究資料第8輯)	昭和14
菱田春草	(美術研究資料第9輯)	昭和15
能恵法師絵詞	(美術研究資料第10輯)	昭和16
宮素然筆明妃出塞図卷	(美術研究資料第11輯)	昭和16
日本美術資料	第1輯	昭和13
日本美術資料	第2輯	昭和14
日本美術資料	第3輯	昭和15
日本美術資料	第4輯	昭和16
日本美術資料	第5輯	昭和17
近代日本美術資料	第1輯	昭和23
近代日本美術資料	第2輯	昭和24

出版 物

近代日本美術資料		第3輯	昭和26
墨跡資料集		第1輯	昭和24
墨跡資料集		第2輯	昭和24
墨跡資料集		第3輯	昭和26
源氏物語絵巻			昭和24
黒田清輝素描集			昭和24
栄山寺八角堂			昭和25
栄山寺八角堂の研究			昭和26
法隆寺金堂建築及び壁画の文様研究			昭和28
黒田清輝作品集			昭和29
高雄曼荼羅			昭和41
明治美術基礎資料集			昭和50
東洋美術文献目録	明治以降昭和10年まで		昭和16
東洋美術文献目録続編	昭和11年～同20年		昭和23
東洋古美術文献目録	昭和21年～同25年		昭和29
美術研究索引	第1号～第100号		昭和16
美術研究総目録	第1号～第230号		昭和40
東洋美術文献目録	明治以降昭和10年まで(再刊)		昭和42
日本東洋古美術文献目録	昭和11年～同40年		昭和44

ほかに科学研究費補助金(研究成果刊行費)の交付を受け、又は本研究所の監修で刊行された図書は次のとおりである。

光学的方法による古美術品の研究

東京国立文化財研究所光学研究班編	吉川弘文館	昭和30
梁楷	美術研究所編 便利堂	昭和32
醍醐寺五重塔の壁画	高田 修編 吉川弘文館	昭和34
平安時代世俗画の研究	秋山光和著 吉川弘文館	昭和39
近代日本美術の研究	隈元謙次郎著 大蔵省印刷局	昭和39
黒田清輝	隈元謙次郎著 日本経済新聞社	昭和41

研究施設・設備

扇面法華経	秋山 光和 柳沢 孝著 鈴木 敬三	鹿島出版会	昭和47
金字宝塔曼陀羅	宮 次男著	吉川弘文館	昭和50

芸 能 部

標準日本舞踊譜			昭和35
音盤目録 I			昭和40
芸能の科学 1	—芸能資料集 1—四世鶴屋南北作者年表		昭和41
芸能の科学 2	—芸能資料集 2—鮫の神楽台本集成		昭和41
音盤目録 II			昭和45
東大寺修二会	観音悔過(お水取り)		
	東京国立文化財研究所芸能部監修	ビクターレコード	昭和46
芸能の科学 3	—芸能論考 I		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和47
芸能の科学 4	—芸能資料集 III		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和48
芸能の科学 5	—芸能論考 II		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和49
芸能の科学 6	—芸能調査録 I「東大寺修二会の構成と所作」(上)		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和50
芸能の科学 7	—芸能調査録 II「東大寺修二会の構成と所作」(中)		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和52
芸能の科学 8	—芸能論考 III		
	東京国立文化財研究所芸能部編	キタムラ書房	昭和52
芸能の科学 9	—芸能論考 IV		
	東京国立文化財研究所芸能部編	キタムラ書房	昭和53
音盤目録 III			昭和53
芸能の科学 10	—芸能論考 V		
	東京国立文化財研究所芸能部編	キタムラ書房	昭和54

芸能の科学11 — 芸能論考VI

東京国立文化財研究所芸能部編

キタムラ書房

昭和55

### 保存科学部 (受託研究報告)

#### (1) 保存科学

昭和39年3月創刊になる保存科学部・修復技術部の機関誌で、年1回の刊行により昭和55年3月迄に19号を刊行した。

#### (2) 重要文化財円成寺本堂内陳彩色剝落どめ他18件

昭和35～昭和42

### 修復技術部

表具の科学(特別研究・軸装等の保存及び修復技術に関する科学的研究報告書)

昭和53

## 3 資 料

### 美術部・情報資料部

実物よりの直接撮影による写真を含む写真資料の作成整理と、購入写真、複写写真による補足整備に加えて、印刷物中の図版をもおさめるという方式で、当研究所設立当初より一貫して力を注いできた写真資料を有する。それらは日本・東洋古美術、日本近代・現代美術、西洋美術の全域にわたり、それぞれ絵画、書蹟、彫刻、工芸、建築等の諸部門に及ぶ。特別大型のものから小型のものまで総数凡そ24万点、原板保有量はほぼ3分の1にあたり、別にマイクロ・フィルム250巻がある。写真資料のほか、拓本、作家伝記資料、落款印章資料、近代・現代作家・団体・作品資料、資料スクラップ等と、図書カード、図版カード、各種索引類など多数。

### 芸 能 部

レコード・録音テープ・写真(8ミリ・16ミリシネを含む)等による芸能資料を多数そなえている。レコードには、毎年各製作会社から発売される伝統芸能関係レコードのほか、昭和35年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションレコード5,450枚が含まれている。安原コレクションは、明治・大正・昭和三代にわたって発

## 研究施設・設備

売された各種邦楽レコードを網羅したもので、近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。録音テープ及び写真は、雅楽・能・歌舞伎・邦楽・邦舞・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能を対象に記録してきたもので、演奏法の解析を中心とした写真・テープ、あるいは各種文書の記録写真等も含んでいる。種別による所蔵数は次のとおりである。

区 分	レ コ ー ド	録音テープ	シネフィルム		写 真
			8 m/m	6 m/m	
昭和53年度 までの累計	6,323枚	2,206本	198本	3本	多 数
昭和54年度	71 "	60 "	0 "	0 "	"
昭和55年度	97 "	70 "	0 "	0 "	"
計	6,394 "	2,266 "	198 "	3 "	"

## 4 機器・設備

### 美術部・情報資料部

#### 機 器

##### 1. X線透過撮影装置

- (1) 可搬式ソフテックス装置(J型) 1式
- (2) 可搬式ソフテックス装置(新J型)
- (3) 式携帯用ソフテックス装置(E型) 1式

##### 2. 紫外線照射装置

- (1) 可搬式照射装置(フィリップス紫外線ランプ及び専用トランス) 2台
- (2) 携帯用紫外線検査器 1台

##### 3. 顕微鏡装置

- (1) 双眼実体顕微鏡及び写真装置 1式
- (2) 新型双眼実体顕微鏡及びカラー顕微鏡写真同時撮影装置(可動支持台)

- 及び携帯用スタンド)
- (3) 式検査顕微鏡用側視鏡ユニット・モノフォト装置 1式
- (4) 比較顕微鏡Ⅲ型 1式
4. マイクロ写真関係設備
- (1) マイクロ写真撮影装置(付自動現像機, プリンター, 引伸機・乾燥機等) 1式
- (2) ポータブル・マイクロ写真撮影装置 1式
- (3) マイクロ閲読機(ルーモ社製) 3台
- (4) リーダープリンター 1台
5. デアスコープ(視聴覚教育装置) 1台
6. カメラ類
- (1) リンホフカルダン 1台
- (2) リンホフテヒニカ 3台
- (3) コメット・ストロボC P-1200DX 1台
- (4) 工業用ファイバースコープ 1式
7. 引伸機
- (1) オメガ(4×5) 2台
- (2) フジA690 1台
- (3) フジS69 1台
8. 複写台
- (1) コピースタンド(1300) 1台
- (2) スライドコピアMD400 1台
9. 乾燥機 FCオート(全紙) 1台
10. ドライマウント シールコマmercial210M 1台
- ドライマウント シールコマmercial70 1台
11. マルチカードセレクトター(HAC841S型) 1式
12. 複写機 ユーピックス800S 1台
13. 製本機
- (1) サーマバインドT220 1台

## 研究施設・設備

- (2) ホリゾン 1台

## 芸 能 部

### 機 器

#### 1. 分析機器

- (1) ピッチレコーダー 1台  
(2) メログラフ BT型 1式

#### 2. オーディオ関係機器

- (1) レコードプレーヤー 8台  
(2) テレビ 1台  
(3) テープレコーダー 18台  
(4) ビデオテープレコーダー 2台  
(5) ステレオ音声調整卓 1台  
(6) スピーカー 1台  
(7) テープダビングシステム 1式  
(8) 屋外取材用音声機器システム 1式

#### 3. 撮影・影写機器

- (1) 16 m/m 撮影機 1台  
(2) 16 m/m 影写機 1台  
(3) 8 m/m 撮影機 4台  
(4) 8 m/m 影写機 2台  
(5) 35 m/m 写真機 6台  
(6) 35 m/m マイクロフィルム解読装置 1台  
(7) 16 m/m マイクロフィルム解読・複写装置 1台  
(8) 16 m/m マイクロ写真機 1台  
(9) 16 m/m シネフィルム分析装置 1台  
(10) リーダー・プリンター 1台

#### 4. 照明器具

- (1) スタジオ用照明器具 1式

## 保存科学部・修復技術部

## 機 器

- |  |    |
|--|----|
| (1) サンシャインウェザーメータ(劣化促進試験機)                   | 1台 |
| (2) 万能試験機(島津, オートグラフ型, インストロン, 10トン)         | 1式 |
| (3) 回折格子光照射器                                 | 1台 |
| (4) 紙耐揉強度試験機                                 | 1台 |
| (5) 衝撃試験機(シャルピー, アイゾット兼用)                    | 1台 |
| (6) 紙耐折試験機(MIT)                              | 1台 |
| (7) 凍結融解試験機(コイトロンHNL-T特殊型)                   | 1台 |
| (8) シュミットハンマー(圧縮強度測定用)                       | 1台 |
| 2. 顕微鏡装置                                     |    |
| (1) 金属顕微鏡                                    | 1台 |
| (2) 生物顕微鏡                                    | 1台 |
| (3) 表面アラサ顕微鏡                                 | 1台 |
| (4) 万能顕微鏡                                    | 1式 |
| (5) 走査型電子顕微鏡(JSM-50A型)                       | 1式 |
| 3. 分析装置                                      |    |
| (1) ガスクロマトグラフ(ガス分析, 水素イオン化検出器・熱伝導検出器・熱分解装置付) | 1式 |
| (2) ポーターガスアナライザー(MIRAN-1型)                   | 1式 |
| (3) 回折格子自記赤外分光光度計                            | 1台 |
| (4) " 赤外顕微鏡                                  | 1台 |
| (5) 自動記録式示差熱天秤                               | 1式 |
| (6) 炭素・水素・窒素分析計                              | 1式 |
| (7) 光電分光光度計(自記)                              | 1台 |
| (8) 蛍光X線分析装置(標準型及び非破壊用大型試料台つき)               | 1式 |
| (9) 可搬式蛍光線分析装置(現場可搬用)                        | 1式 |
| (10) X線回折装置及びデバイシェラカメラ, ラウエカメラ(結晶同定)         | 1式 |
| (11) 発光分光分析装置型(MI)(型高圧整流スパーク, 直流アーク)         | 1式 |

## 研究施設・設備

- |                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| (12) 質量分析計(JMB-05RA単収束型)            | 1式 |
| (13) X線マイクロアナライザーSDS-269(ISM-50A附属) | 1式 |
| (14) 原子吸光分析装置(マイクロコンピュータ付)          | 1式 |
| (15) プラズマリアクターPR-151                | 1式 |
| 4. 非破壊検査装置                          |    |
| (1) 工業用X線発生装置(60KVP, 4mA)           | 1式 |
| (2) 工業用X線発生装置(200KVP, 8mA)          | 1台 |
| (3) Co-60 $\gamma$ 線線源(透視用3c及び0.2c) | 2個 |
| (4) 赤外線TVカメラ装置                      | 1式 |
| (5) 超音波探傷器 UFD-201型                 | 1台 |
| (6) 超音波式コンクリート試験器                   | 1台 |
| (7) " 厚み測定器                         | 1台 |
| (8) シングアラウンド式音速測定装置 UVM-2           | 1式 |
| 5. 物性測定機                            |    |
| (1) 粒度分布測定装置                        | 1式 |
| (2) 熱膨張計                            | 1台 |
| (3) レオメーター(粘性試験用)                   | 1式 |
| (4) 直読式動的粘弾性測定器                     | 1台 |
| (5) 真空蒸着装置(表面薄膜形成用)                 | 1台 |
| (6) 簡振盪機(標準フルイ付)                    | 1台 |
| (7) 明石ロックウエル硬度計 ARK-B               | 1台 |
| (8) ゴニオメーター(接触角測定機)                 | 1台 |
| (9) ゼーター電位測定装置                      | 1式 |
| (10) PHメーター                         | 1台 |
| (11) 透水試験機                          | 1台 |
| (12) 表面張力測定機                        | 1台 |
| (13) 万能デジタル計測システム(ユーカム8)            | 1式 |
| 6. 照明及び温湿度装置                        |    |
| (1) 自記分光放射計(光源の分光測定)                | 1台 |

## 研究施設・設備

- |                              |    |
|------------------------------|----|
| (2) ライトガイドカラーメーター(色彩測定)      | 1台 |
| (3) 恒温恒湿槽(0°C~40°C 20~90%)   | 1台 |
| (4) 風速計(熱式) AM01             | 1台 |
| (5) サーモダック II                | 1台 |
| (6) 恒温恒湿槽(-30°C~80°C, 5~95%) | 1台 |
| 7. 殺虫殺菌装置                    |    |
| (1) 滅菌装置                     | 2台 |
| (2) 滅圧殺虫装置                   | 1台 |
| (3) ガス滅菌装置 GS-15特型           | 1台 |
| 8. 菌種保存用装置                   |    |
| (1) 超低温槽(-50°C)              | 1台 |
| (2) 冷却遠心機(-5°C~5°C)          | 1台 |
| 9. 環境汚染測定装置                  |    |
| (1) 粉塵計(記録装置付)               | 1式 |
| 10. 修復処置装置                   |    |
| (1) 真空凍結乾燥装置                 | 1式 |
| (2) 滅圧含浸装置                   | 1式 |
| (3) エヤブラッシュ装置                | 1式 |
| (4) 合成樹脂圧入装置                 | 1式 |
| (5) 水浸木材用含浸装置                | 1式 |
| (6) 熱風恒温乾燥機                  | 1台 |
| (7) 装潰用備品                    | 1式 |
| (8) 万能木工機                    | 1台 |
| (9) 漉 嵌 機                    | 1台 |

## 5 黒田記念室

黒田記念室は、本研究所の創立者故帝国美術院長子爵黒田清輝の功績を記念するために設けられた陳列室であって、黒田清輝の油絵・素描・写生帳等を収蔵している。

創立当時主として黒田家から寄贈されたものは、油絵125点、素描170点、写生帳等

## 機器・設備

であるが、その後黒田照子夫人、樺山愛輔、田中良氏等からの寄贈が加わった。収蔵品の主なるものは、「知感情」・「花野」・「湖畔」・「赤髪の少女」・「もるもる日影」・「温室花壇」等である。

観覧の日時は毎週木曜日午後1時から同4時までとし、観覧を停止する日は左の通りとする。

祝日

開所記念日)10月18日)

年末年始(7月21日から翌年1月6日まで)

夏期(7月21日から8月31日まで)

本研究所において必要があるときは、前条の日時を随時変更することがある。ただし、この場合は予め揭示する。

昭和52年度より、黒田清輝作品の地方巡回展を行い、本年度は佐賀県立博物館で開催した。

## 6 観覧室

本研究所情報資料部資料室の図書及び研究資料は主として研究者・学者・美術関係専攻の学生等に公開している。年間の観覧者数は、延1,000名程度である。

東京国立文化財研究所要覧（昭和55年度）

---

昭和57年3月5日発行

発行所 東京国立文化財研究所

〒110 東京都台東区上野公園13-27  
電話 (823)2241(代)

---